

「NEWSな濟生人」
アフターコロナの
病院運営

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1130



8

August 2023

社会福祉法人

恩賜財団

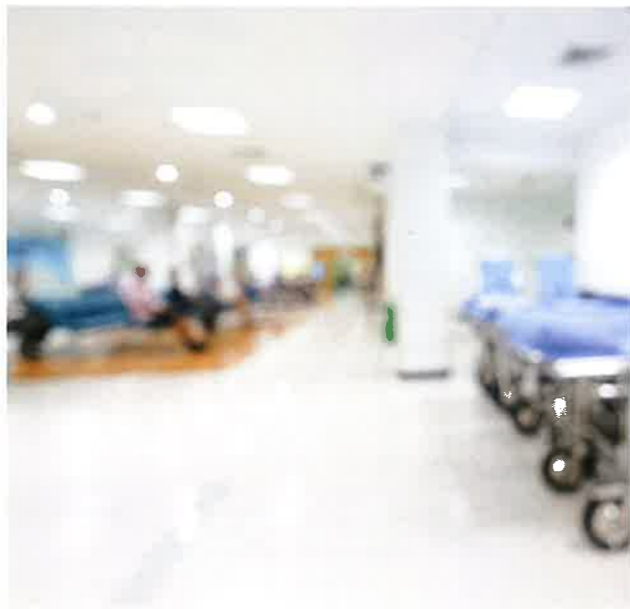
濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

済生会の 不易流行論

179

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



国民の受療行動は変わったか

私の若いころのヒット曲に森田公一とトップギャランが歌った「青春時代」がある。ヒットした理由の一つは、阿久悠作詞の「青春時代の思い出は、あとからほのぼの思うもの」という一節が、おじさんの共感を呼んだからだ。

歴史の体験も同様である。さまざまな歴史的事件の渦中にいるときは、その重大性を認識せず、後日「あの時は大変だった」と述懐する。

新型コロナウイルス感染症は、世界の歴史を変える重大事件だった。多分野に大きな変化を生じているが、渦中にある時は明確に認識されない。しかし、政治、行政、企業等あらゆる組織は、正確に把握し、変化に対応する方策を講じなければならぬ。この成否が、組織の盛衰にかかわる。

日本人の消費行動の底流では、確実に変化が起きている。リベ

☆ ☆

医療の世界も変化が起きている。新型コロナウイルス感染中は一般医療が制約され、国民も感染を心配して病院での医療を控えた。この状況が変化したはずなのに、病院外来や入院患者の人数は、以前の状態に戻らない。

仮説はいくつか考えられる。第1は国民の健康水準が向上したからだろうか。しかし、新型コロナウイルス禍による運動不足などでむしろ悪化していると推定すべ

きた。事実、日本人の平均寿命は頭打ちになった。

第2は、在宅医療の普及である。国が強力で推進しているのだから、効果が表れたのだろうか。確かに新型コロナウイルス禍の間は病院でなく、近くのクリニックにかかった人が多いたろうから、その習慣が定着したとも考えられる。

第3は、医療を受けないでやり過ごした人はたくさんいるから、なんとなく病院が遠い存在になってしまったことも考えられる。このケースでは病気が悪化してから医療を受けることになってしまふ。

第4は、前述のように所得が増えないのに物価が上がり、生活が苦しくなった人の増加がある。増大する患者負担を心配して医療を受けない人が、増えていないのか心配される。

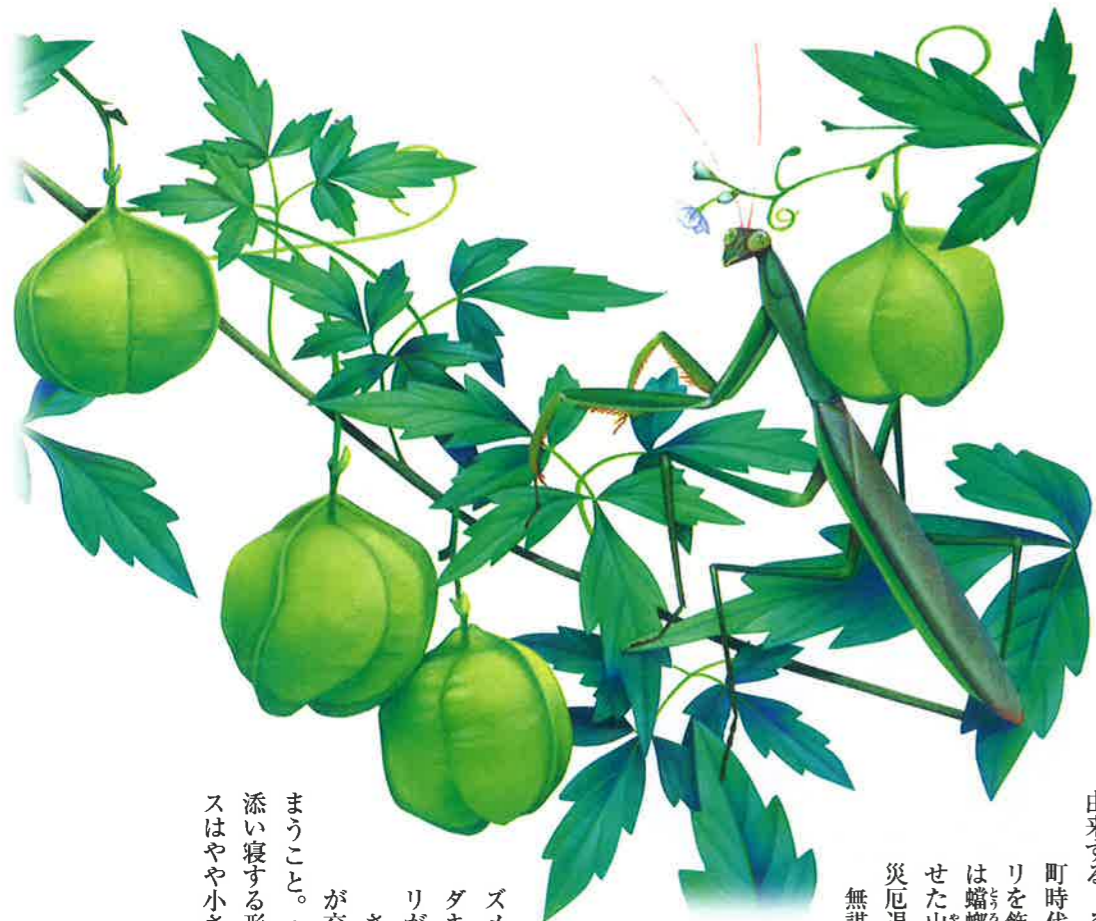
現在得られるデータでは国民の受療行動の変化と原因は、明確には分からない。しかし、注意して分析し、速やかに対策が講じられないと国民の健康に取り返しのつかない事態が起きるのではと大変心配になる。

昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。
今日を未来へとつなげていくために。
私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。
いつどんなときも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。



三井住友銀行



8月のたよりが聞こえる カマキリとフウセンカズラ

「蟷螂の斧」は己の無力を顧みない無謀さの意味だが、もともとは勇猛さを表す成句だった。蟷螂とはカマ

キリのこと。昔、中国で道の真ん中で小さい体で鎌を振り上げ、王の馬車の方向を変えさせたという故事に由来する。その故事にあやかっ

町時代には武将が兜にカマキリを飾った。京都・祇園祭には蟷螂山というカマキリを載せた山鉦が登場し、勇猛さで災厄退散を願う。

無謀と勇猛は紙一重。相手
が何であろうと動くものに鎌を振り上げ、主食の昆虫を
通り越し時に鳥まで捕食してしま
う。捕まるのは最小のハチドリが多
いが、日本ではスズメより小ぶりのキクイタ
ダキを捕まえたオオカマキリが報告されている。

さらにすごいのは、メスが交尾中のオスを食べてしまうこと。オスが横から忍び寄り、添い寝する形で尾端を合わせる。オスははやや小さくメスの首の辺りに頭

が来るので、メスの視界に入る。で、ガブリ。頭を食べられても、生殖機能を受け持つ腹部の神経節は働くので交尾は最後まで続くそうだ。

もともと世界で2千種を超す全てのカマキリが交尾相手を食べるわけではない。食する習性を持つ種でも空腹などの理由で実際に食べるのは13〜28%と「ナショナル・ジオグラフィック」誌がWebで報じている。

さらに同誌は、交尾相手を食べたメスは通常の2倍の数の卵を産むとの研究も紹介。食べられずに生き延びれば別のメスとも交尾できるし、食べられても自分のDNAを継いだ子孫が多数生まれ繁栄する、と男性読者を慰めて(?)もいる。
かにかくに一般的に男性は、メスがオスを食するという習性に強く反応する。深層に、腕力や制度や慣習等をもって築いてきた男性優位社会が崩れることへの恐れがある——この見立ては無謀か、勇猛か。グリーンカーテンとして人気上昇中のフウセンカズラの陰で、カマキリと一緒に考えてみよう。

表紙のことば
涼風にゆれる風船に乗りたい!

表紙イラスト 久保田真由美 Mayumi Kubota

盛夏の白い光に黄緑色を透かしながら、細い茎に実を付けた、ふわふわと揺れる小さな風船のような植物を見かけることがあります。見つけた瞬間にちょっと心が自由に軽くなります。フウセンカズラ。カマキリくらい小さければその実に乗って遊んでみたい。飛び移るたびにつながった全ての風船が揺れるでしょう。フウセンカズラもタネに描いた白い模様のハートをドキドキさせることでしょう。



濟生

SAISEI

CONTENTS
AUGUST, 2023

NEWSな濟生人
アフターコロナの病院運営
地域の期待に応えられる体制づくりを
(鳥取) 境港総合病院 院長

佐々木祐一郎さん

濟生会交差点

《ハイブリッド手術室2室体制に》手術室+最先端画像診断機器で、低侵襲のカテーテル治療が可能に／《多職種チームでの院内パトロール》医療安全文化は自分たちでつくる。多職種の視点と工夫で課題を改善／《介護予防教室でスマホ講座開催》スマホの使い方が知りたい! 学ぶ楽しさに年齢は関係ない／《移動スーパーで高齢者を元気に》山間部の高齢者を救う! 楽しみながら買い物をしてリハビリ・孤立防止に

巻頭コラム 濟生会の不易流行論 03
国民の受療行動は変わったか 理事長 炭谷 茂
8月のたよりが聞こえる カマキリとフウセンカズラ 05
表紙のことば 久保田真由美
ソーシャルインクルージョン 20

この人 橋本 淳 24
口福につぼん 吉井省一 26
だれでもかんたん てづくりおもちゃ 28
いまいみさ

TOPICS 30
載々、大雑報 74

題字協力: 石飛博光
アートディレクション: OVO INTERNATIONAL



境港市がある弓ヶ浜半島は日本最大級の砂州で平坦な土地が続く。右に境港総合病院が見える



積極的にメディアの取材を受け病院の使命を訴える



境港といえば「ゲゲゲの鬼太郎」の生みの親、水木しげる氏の出身地



聞き手の松岡さん



〈鳥取〉境港総合病院 院長 佐々木祐一郎さん

アフターコロナの病院運営

地域の期待に応えられる体制づくりを

すね。佐々木 転勤などで境港に移り住んで、この風土や行政サービスが気に入って住み着いたという人も少なくないと聞きます。かく言う私自身も境港の出身ではありませんが、鳥取大学医学部の医局人事で県内のいくつかの病院に異動した中で、ここが一番気に入っています。

松岡 境港総合病院に寄せる住民の信頼は大きいのでしょうか。この3年余りは、新型コロナウイルスへの対応に苦労されたのではないですか。

佐々木 感染症指定医療機関である当院は、197床のうち35床をコロナ患者専用として確保し、最も多いときで31人の軽・中等症のコロナ患者を受け入れました。

松岡 当院でも職員が濃厚接触者となると勤務を制限せざるを得なくなり、緊迫した状況が続きました。

佐々木 そうした中で、看護師をコロナの専用病棟に重点的に配置する必要がありました。一般病棟の人手が割かれた。一般病棟の人手が割かれた。外来の看護師に病棟の応援に回ってもらいました。全職員

3年超にわたる「コロナ」との戦いの検証が進む中、境港総合病院は地域の基幹病院としての機能強化をはじめ、運営の立て直しが始まっています。地域医療に貢献するためには全職員が病院の理念や経営方針について共通認識を持ち、同じ方向へ向かっていく必要があります。佐々木祐一郎院長にアフターコロナを見据えた病院運営について話を聞きました。

〔京都済生会病院 企画広報室長 松岡志穂 (済生会広報実務研究会会長)〕

松岡 本誌2023年4月号「Topics」で、佐々木院長はアフターコロナを見据えた病院運営などを幹部職員に訴えたという記事を拝見しました。トップが職員に病院の理念や経営方針を伝え浸透させることは経営幹部の重要な役目と考えますが、どのような話をしたのですか？ なぜそのようなことをしたのですか？

佐々木 注目していただきありがとうございます。まずは境港という街についてお話ししますね。

松岡 よろしくお願います。

佐々木 境港市は人口約3万3千人です。高齢化率は上昇の一途をたどり、2045年には38%に達すると推測されています。この地域は住民の地元愛が強いのが特徴で、米子市との合併の話が持ち上がった際も、住民投票の結果、合併せずに境港市として存続することになりました。

で危機を乗り切ったという感じですが。コロナ以外の患者さんの中には、かかりつけの



アフターコロナの病院運営を病院幹部職員に訴えた

当院で診てもらえず、心配する人もいました。当院の奮闘はNHKをはじめメディアで報道され、市民にも伝わったと思います。

強みとともに弱みもさらけ出し 具体的な方針を打ち出す

松岡 一度離れた患者さんを取り戻すのは大変です。

佐々木 市内で唯一の総合病院として、良い噂も悪い噂も立つのが早いので、日ごろから接遇に重点を置いて患者さんに対応するように指導しています。

※写真撮影時のみマスクを外しています

病院の理念や経営方針を 院内外に周知していくことが重要

松岡 私は大阪府内の自宅から病院のある長岡京市に通勤していますが、長岡京市民のつもりで仕事をしています。その街を愛する気持ちが接遇にも現れると思っっているからです。行政との関係はいかがですか。

佐々木 行政のトップである境港市の伊達憲太郎市長は、鳥取県済生会の会長です。私は、院長就任直後から事あるごとに市長室を訪問し、報告するようにしています。また度々、医師派遣元である鳥取大学医局にご同行していただいております。関係性は良好だと思います。同じ出身高校の先輩でもあるので心強いです。

松岡 例えばどのような？

佐々木 当院は市内唯一の透析医療機関ですが、高齢化が進み自家用車の免許返納で定期通院が困難になられる患者さんが増えました。そこで当院でも透析患者さんを対象とした送迎サービスを導入したいと考え、その支援をお願いしたところ前向きに検討していただけることになりました。また、市長のリーダーシップで今年度から救急医療補助金の増額が決定しました。

松岡 良好な関係ができていますね。
佐々木 市に求めるばかりではなく、市の

関連事業にも積極的に参画するようにしています。例えば、商工会議所優良従業員表彰式で「済生会境港総合病院の現在と未来」をテーマに講演したり、地元企業と医療廃棄物容器電動開閉装置を共同開発したりしています。

松岡 装置の開発まで！信頼関係があるから

こそだと思いますが、さながら「境港市民病院」ですね。

佐々木 確かに。難しい案件であっても、できるだけ受け入れるようにしています。新型コロナウイルスワクチン接種では休日返上で病院を挙げて対応しました。職員の理解と協力があってこそ、市との良好な関係が築けてい



大腸内視鏡検査を行なう
佐々木院長



院内の各部署を回診。職員
との意思疎通を欠かさない



本誌「topics」に登場した境港総合病院の活動

院内保育所では読み聞かせボランティアが大活躍

生活や地域を高齢者が豊かにする活動を
する「ことぶきクラブ」が病院を紹介

「コロナ診療のお礼がしたい」ボラン
ティアが院内敷地の除草してくれた

中学生の職場体験。薬剤の
補充や薬を探す作業を体験

第62回 優良従業員表彰式

商工会議所で病院の現状や
あるべき姿を訴えた

バイオハザードボックス電動開閉装置を企業と共同開発

でも、簡単ではないと思います。
佐々木 職員の気持ちを汲み取るためには、院長自らが胸襟を開かなければいけない。そして職員には感謝の気持ちをもって接する。特にコロナ禍ではその思いを強くしました。これも広報活動の一つだと思います。地域に対しても当院の考えを周知することが重要です。

松岡 いかに広報が機能しているかということ、たとえば本誌「topics」を見ても推測できます。私は毎月楽しく読んでいますが、境港総合病院の記事がよく目に触れます。テーマも院内イベントや診療情報から、ボランティア活動など多岐にわたります。積極的な広報活動をしていると感じました。
佐々木 そのように見ていただけていると、うれしいです。

松岡 済生会の他の施設にとっても刺激になります。組織全体が活性化すると、済生会のブランド力が上がると思います。

地域で必要とされる 病院であり続けるために

佐々木 済生会のブランド力を上げるには他の医療機関との連携は欠かせません。
松岡 地域の医療機関との連携体制はいかがでしょうか。

佐々木 当院は鳥取大学医学部附属病院との連携を重視しています。当院が二次救急サブアキュート、ポストアキュート、コミュニティのサーフェイネットになっ

当院の経営はどうなるのか「人口減少が進む中で当院はどのような方向に進んでいくのか」「医師の働き方改革が迫る中で大学からの派遣常勤医師の引き揚げはあるのだろうか」など、職員が疑問や不安に感じていることについて、私自身の考えを説明しました。

松岡 それに対してどのような方針を示したのですか。

佐々木 高齢化率の上昇に伴って医療需要の増加が見込まれ、当院で対応できるコミュニティサービスなどは地域住民の期待にしっかり応えていくこと。境港市唯一の二次医療機関として可能な限り救急搬送を受け入れていくこと。透析患者の送迎サービスの

体制を整えること。市内唯一の大腸精密医療機関であり、高度内視鏡治療（ESD）が可能な医師も複数在籍し、また新たに消化器外科専門医が着任したこと、この分野は益々充実していくことは確実であることなどです。

松岡 職員の反応はどうでしたか。

佐々木 院長が何を考え病院をどの方向に進めていくのか理解した「どのよう収益を確保していくか具体的な話を聞くことができてよかった」といった声が届いています。精神論だけではなく、当院の強みや弱みを明らかにして具体的な方針を打ち出したことがよかったと感じています。

松岡 院長と職員が意思疎通を図るといっ



ハイブリッド手術室の血管撮影装置。リアルタイムでX線透視やCT、エコー画像診断が可能



ハイブリッド手術室にてTAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）治療を施行

ハイブリッド手術室 2室体制に
福岡総合病院
 循環器内科部長 兼 救命救急センター長
大井啓司

「ハイブリッド」とは異種のを組み合わせること。当院のハイブリッド手術室は従来、別々の場所にある「手術室」と「画像診断用の機器」を組み合わせた設備で、術中にリアルタイムでX線透視やCT、エコー画像診断ができることが特長で

増設しました。昨年8月、従来の手術室フロアに2室目となるハイブリッド手術室を

開胸せずに負担を小さく
 急速に進む高齢化、新型コロナウイルス感染症の流行で、家族との面会もできず長期入院となる高齢患者のリスクを考えると、身体への負担を小さく抑える低侵襲

す。これにより、TAVI（経カテーテル的大動脈弁留置術）、WATCHMAN（経カテーテル的左心耳閉鎖術）、大動脈解離や大動脈瘤に対するステントグラフト治療といった、さまざまな新しいデバイスを用いた心血管カテーテル治療法が行なうことができるようになりました。そのほか脳神経外科、整形外科領域の手術でも活用できます。

低侵襲のカテーテル治療が可能に

手術室 + 最先端画像診断機器で

済生会
交差点
 SAISEIKAI・JUNCTION
 済生会にはたくさんの道があります。道はどこかの交差点で交わり、離れていきます。そして経路は異なっても目的地はみんな同じ。「笑顔」です。



ていることで、大学病院は三次救急や高度医療など本来の役割を果たすことができる。と考えます。両院間での患者紹介・逆紹介の体制もしっかりとできてきます。また、大学病院の各科教授には定期的な面談をお願いしています。どの教授も優しく迎えてくださっており、穏やかな気持ちになります。新型コロナウイルスの5類移行後、大学病院関

連の行事に招待されることも多くなりました。松岡 来年度から始める「医師の働き方改革」によって労働環境や経営の見直しが必要になります。佐々木 それについても大学病院との関係を良好にしておくことが重要です。現在、大学病院から多くの当直医を派遣していただいています。もちろん費用はかかりますが、それによって常勤医師の負担軽減や普段の診療、入院対応に全力を尽くしてもらえればと考えています。

松岡 地域に必要とされる病院であり続けるために何が大切でしょうか。佐々木 当院は厚生労働省が掲げる公立・公的病院の再編統合の対象になりましたが、住民が市に当院の存続を陳情したり、地域の高齢者施設も反発の意を表明したりしました。【取材を終えて】

取材に向けて事前に境港総合病院を調べていたところ、病院が市民に愛されてきた経緯やこれまでの職員の取り組みなど、たくさんの情報に触れることができました。



これこそ「広報力」の賜物だと感じました。取材を通して患者さんや地域、職員や関係者との「対話」と「共感」がいかに重要か改めて実感しました。（松岡志穂）

松岡 「和顔愛語」すてきな言葉ですね。先ほど「院長は職員に感謝の気持ちで接することが大切」と話していたことが理解できました。佐々木 地域から信頼されるために、ホームページでは「Toyo院長室」というコンテンツを通じて当院の活動を発信することで職員はもちろん、一般の皆様にも当院を少しでも身近に感じていただき、また医療従事者の確保にも繋がればと考えています。この取材のことも掲載するかもしれません。松岡 楽しみにしています。

した。市も当院の存在意義を理解しています。そうした地域の思いを受けて、当院はこれまで以上に地域に密着し、信頼に添えていくことが大切です。また、つい最近ですが鳥取大学副病院長で循環器内科の教授が鳥取県西部地区において当院はきわめて重要な病院であると明言されたことも励みとなります。松岡 広報の役割の大きさを改めて感じ、身が引き締まる思いです。佐々木 何より、私たち一人ひとりが、患者さんの立場になって行動することです。当院の院是にある「和顔愛語」を実践し、心温まる病院を築き上げるよう努力していきたいと思えます。

*大乗仏教経典の「無量寿経」に出てくる言葉で、「やわらかい表情、やさしい言葉で、相手の心を汲み取って受け入れる」という意味

医療安全文化は自分たちでつくる 多職種の視点と工夫で 課題を改善



月間注意喚起チームは、医師や看護師、臨床工学士、検査技師

工夫を凝らした チーム活動

当院では2002年に医療事故防止対策委員会を設置し、その活動の一環として、院内の環境整備や安全対策の策定、また多職種交流を目的とした「院内パトロール」を5年前から始めました。各部署から選出された28人の委員は「月間注意喚起チーム」「個人情報保護チーム」「薬剤チーム」「転倒・転落チーム」の4チームいづれかに所属。医療安全文化の醸成のため、「一人ひとりの力が、大きなパワーに！」を合言葉に各チームでの活動と月1回の活動報告を行います。

4月のラウンドは、病院食の調理を行なう厨房へ。換気扇や流しの定期的な掃除の計画を立ててもらうことで業務の効率が向上。おいしい食事が提供されることと、その裏で清潔・整理整頓がきちんと維持されることには

師、放射線技師、調理師などで構成。整理・整頓・清掃・清潔・しつけの「5S」を目標にラウンド場所の年間予定を立て、月1回ラウンドをしています。



厨房をラウンドし、食品衛生法に基づいた環境で調理できているか、5Sは維持できているかを確認する月間注意喚起チーム



死亡診断書の記入漏れやコピーし忘れを防止するために個人情報保護チームで作成した「確認用窓付きシート」

関連があることが分かりました。個人情報保護チームには、医師や経理事務、情報システム課、地域連携室などの職員が集まりました。

昨年度は荷物の受け渡し間違いや薬の飲ませ間違いなどの報告が32件あったため、今年度は患者誤認防止を目標に取り組んでいます。

医師、薬剤師、看護師で構成される薬剤チームは、麻薬・向精神薬が正しく管理されているかのラウンドを実施。病棟で処方された薬の残数をみて正しく

処方が行なわれている

『お名前を教えてください』



その一言で防げる
患者間違い

患者誤認防止のために作成したポスター

このまちの済いに

新ハイブリッド手術室完成。救急医療・高度専門医療の強化を実現

手術室完成を記念し、西日本新聞に全面広告を掲載した

治療のニーズはますます高まっていると感じます。9年前に開心術による大動脈弁置換術を受けた80代後半の患者さんはその生体弁（人工弁）の劣化により心不全を発症し、当院でTAVI治療の手術を受けました。その際の身体にメスを入れない、簡単に負担の少ない治療に、「本当に私の弁は入れ替わったのでしょうか？」と驚かれ、大変喜ばれていました。カテーテルを使って大動脈弁を取り換えるTAVIや、バネ状の金属を付けた人工血管を血

管内に挿入するステントグラフト治療は、開胸せずに治せる低侵襲治療の代表ですが、当院でも治療件数は増加傾向にありま

す。最近では「他院で手術を勧められたが、カテーテル治療ができないか」と思案し当院を受診される患者さんも増えてい

ます。

今回の手術室増設により、TAVIを必要とする大動脈弁狭窄症患者の受診から治療までの

待機期間が約2カ月から約1カ月以内と半分に短縮され、多くの緊急手術にも対応できるようになりました。

当院は重篤な救急患者に対応できる三次救急医療機関であり、急性心筋梗塞、大動脈解離などの重篤な心血管疾患患者を多く受け入れて

います。地域において救急医療、高度専門医療を充実させることは「最後の砦」として地域医療を守る

当院の使命です。

手術室増設によりハード面は十分に整備されたので、医師・メディカルスタッフを含めたチームがさらにフットワーク軽く、迅速・安全に高度先進医療を提供してまいります。

広報誌「ふくふくネット」やSNS（インスタグラム）等でハイブリッド手術室についてPR

Instagram: fukuoka_saiseikai

WATCHMAN 左心耳閉鎖子パイスによる心房性脳塞栓予防治療

いいね！105件 fukuoka_saiseikai 今年8月より、当院では2室目のハイブリッド手術室が稼働しています。

ハイブリッド手術室は、血管造影撮影装置が設置された手術室多室1室です。

スマホの使い方が知りたい! 学ぶ楽しさに 年齢は関係ない

介護予防教室で スマホ講座開催

(新潟)
特養長和園
済生記者
西川まゆみ



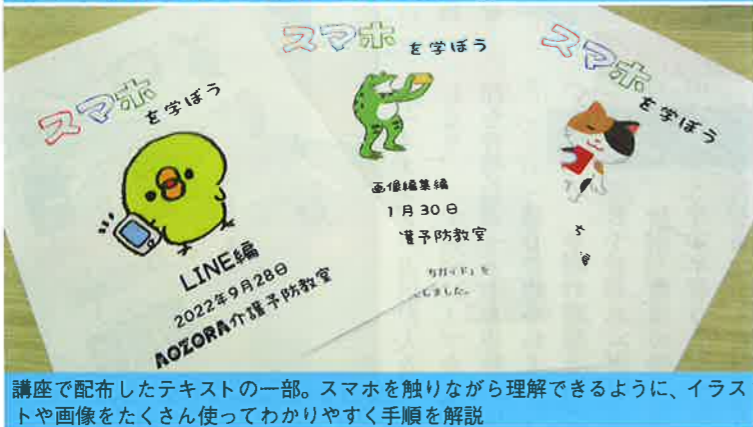
当園は2017年10月に地域交流拠点「オープンハウスRAN南」を開設すると同時に、高齢者が集う「AOZORAカフェ」を開始。これまでの活動が評価され、21年度からは三条市の介護予防事業を受託し「AOZORA介護予防教室」として月・水・金曜日の週3回運営しています。

しかし、21年度の実績を振り返ると、介護予防教室利用者は80代の女性が圧倒的に多く、男性の利用はほんの数人。60〜70代の方や、男性に利用してもらうことが課題です。

介護予防教室を地域住民にPRするにはどうしたらよいか模索していたところ、当園が運営する三条市地域包括支援センターの阿部智子副主任(社会福祉士兼生活支援コーディネーター) (済生会地域包括ケア連携士) から、「スマートフォン」の使い方を教える講座を開催しては？」との提案がありました。



実際にスマホを動かしながら使い方を学ぶ参加者。最初は全く使えなかった人もマンツーマン指導でアプリを操作できるまでに



講座で配布したテキストの一部。スマホを触りながら理解できるように、イラストや画像をたくさん使ってわかりやすく手順を解説

が防災情報や生活情報をLINEやTwitterで発信することが多くなるにつれ、地域の方からスマホの使い方を詳しく知りたいという声が増え、届くようになったとのこと。

**スマホへの関心高く
あっと言う間に満員!**

そこで、22年度ははじめから具体的な講座内容の検討を開始。スマホ初心者を知りたいことを気軽に聞けて、無理のないべ

すで使い方の基本を習得できるように、「Wi-Fi編」「LINE編」「Google検索編」「QRコード編」の4回に分けて毎月1回、同年9月からスタートすることにしました。

講座の名称は「スマホを学ば

ました。各職種の業務優先のため、チーム活動にメンバー全員が集まることは難しいですが、ラ

ウンドごとの担当者を決め、同じ視点で誰もが確認を行なうことができるようにラウンドのチェックリストを作成しています。

ラウンドの結果は資料にまとめ、月1回の委員会で報告して共有します。

一人ひとりがインシデント報

告を自分のこととして捉え、改善する意識を持つことで、質の高い医療・看護の提供につなげたいと考えています。



県医療安全推進センター主催の医療安全管理者ネットワーク事例検討会議に参加した転倒・転落チーム



月1回、医療事故防止対策委員会を開催して各チームのラウンドの結果やインシデント報告、その対策の検討について共有する

か、そして薬品庫の鍵をリーダーがしっかりと保管しているかの確認を行なっています。

また、昨年度は点滴注射液「ビーフリード」の隔壁未開通が7件あり、課題となっていました。ビーフリードは異なる成分の薬液を二槽に分けて充填した二槽バッグ製剤のため、投与前に二槽の隔壁を開通させる必要があ

ります。今年度はラウンドでの新人看護師への手技確認や、看護師同士のダブルチェックにより0件を目指しています。

転倒・転落チームでは、医師、理学療法士と看護師が、転倒した患者の日常の動作やベッド周囲の環境などを確認するラウンドを行なっています。実際の状況を見ながら「ここに柵が必要

「右回り(左回り)に動くからこの導線を確保した方がいい」といった改善策を検討し、当該部署のスタッフと情報交換。その結果、昨年度の患者転倒件数は前年度より30%減少しました。

部署を超え 自分ごととして 課題改善の意識を

院内パトロールの活動を開始した当初は、ラウンド実施への不満の声や、ラウンド後の指摘に対する抵抗が各部署でみられ、改善がなかなか進捗しませんでした。しかし、多職種チームでのラウンドの回数を重ねていくうちに部署同士の理解が深まり、課題を改善するために多角的な視点で意見交換ができるようになってきました。また、互いの業務内容を理解することにもつながり、ラウンドへの抵抗感は次第になくなっていき



麻薬・向精神薬の残数を記録し、正しく処方が行なわれているかを確認するためのチェックシート



薬剤チームのラウンドでは、二槽バッグ製剤の隔壁を開通させる手技の確認を新人看護師に対して実施



転倒した患者の日常の動作を確認するなど、実際の状況を見ながら転倒・転落チームで改善策を検討

よろこびがつなく世界へ
KIRIN



果汁0.1%



午後の紅茶
レモンティー

GOGO-TEA.jp

キリンビバレッジ株式会社 のんだあとはリサイクル。

Saisei
[3号連続] 読者プレゼント

★ 8月号! 午後の紅茶レモンティー 500ml×24本を10名に★

応募方法: メールで広報室 koho@saiseikai.or.jpへ 締切(8月号分) 8月31日

- 提供: キリンビバレッジ株式会社 <https://kirinproducts.jp/softdrink/>
- 当選は発送をもってかえさせていただきます。応募者・当選者の個人情報は景品発送後速やかに破壊いたします。
- 氏名(フルネーム)・郵便番号・住所・電話番号を必ず記載の上、ご応募ください。



出張版スマホ講座「直江町スマホ教室」の講師・参加者

「自治会の依頼で出張の講座も」
地域包括支援センターでは普段から地域に向いて各種講座を開催する

「直江町スマホ教室」を翌月に開催。60歳以上の女性6人・男性3人の参加があり、「公式LINEを入れることができよかったです」「写真の撮り方でわからないところを教えてくださいました。」など、好評でした。こうしてスマホ講座が地域で広がっていくことで、より多くの方のお役に立てるとともに、介護予防教室のPRにもなることを期待しています。

スマホ講座の開催を通して、新しいことを学ぶ楽しさはいくつになっても体験できるということに参加者から教えられるように関心を持ってもらえるようなイベントを企画していきます。

集まった参加者は70〜80代の女性9人・男性1人。通常の介護予防教室は近所の方の利用が多いのですが、本講座は他の地域からの参加者が大半を占めていたのも特徴的でした。参加者のみなさんが抱える疑



講師を担当した三条市地域包括支援センターの小林千里さん(左)と阿部智子さん(右)、筆者(中央)。テキストは小林さんが作成

「うー」。60歳以上を対象に、市広報誌のお知らせ欄「みんなのひろば」への掲載やチラシの地区回覧、ポスター掲示により告知したところ、定員10人はすぐに埋まり、スマホへの関心の高さがうかがえました。

「講義は各自のスマホを実際に操作しながら学ぶ実践形式で、Wi-FiでインターネットにつないでLINEアプリをダウンロードすることから開始。

ランティア2人と地域包括支援センター職員2人で講師を担当し、参加者それぞれの状況に合わせて丁寧な指導を心がけました。

「写真を送るにはどうすれば?」「LINEとは?」などさまざまな。スマホに詳しいボランティア2人と地域包括支援センター職員2人で講師を担当し、参加者それぞれの状況に合わせて丁寧な指導を心がけました。

AOZORA介護予防教室
スマホを学ぼう!

- ・スマホを持ったけどうまく使えない
- ・気軽にスマホのことを学びたい
- ・スマホのことを相談できる場所がわからない

一緒に楽しくスマホを学んでみませんか?

開催日	9月28日(水)、10月26日(水)、11月30日(水)、12月21日(水) (全4回) 午後1時~3時
場所	AOZORA介護予防教室 (三条市西四町3-2-28)
対象者	60歳以上 定員 10名
持ち物	ご自身のスマホ

お問い合わせ先 黒川 西川 35-2131
※申し込み期間は9月12日(月)です

AOZORA介護予防教室「スマホを学ぼう!」の告知ポスター

「孫とLINEでやり取りしたい!」検索、画像の扱いなどスマホの基本をひと通り学んだ参加者は「いろんなアプリを知ることができて楽しかった!」「スリーパーのアプリでクーポンを活用したい!」

グループに投稿すると、参加者からスタンプや返信が入るようになり、一生懸命にスマホの操作を習得しようとする姿勢には感心させられました。4回の講座を終え、LINEやGoogle検索、画像の扱いなどスマホの基本をひと通り学んだ参加者は「いろんなアプリを知ることができて楽しかった!」



講座第3回では画像編集に挑戦! 10人を2グループに分けて少人数制でレクチャー、参加者からの疑問にも丁寧に対応



軽トラックに積まれた約400品目の商品のラインナップは「とくし丸」スタッフの選りすぐり

「あるよ。今が旬で一番おいしいね！」といった買い物特有の会話も飛び出します。季節物の商品も利用者の目にも止まりやすく、買い物から風情を感じてもらおうと工夫もつなげています。家族に夕飯のおかずを頼まれていたり、買ってきた食材を自宅

で調理している方など、買い物の目的はさまざま。「買い物をすると家族の中での役割が本人の使命感につながり、自宅での孤独感を感じにくくなったという方もいます。また、自宅での食事が進みにくい方が実際に商品を目にし、当該施設職員やとくし丸スタッフと会話しながら楽しく買い物することで、「晩酌のツマミとして一品追加してみようか」と食事への関心につながったという例もあります。

屋外へ出る機会づくり



【4】提携する「スーパーマーケット いちい」からの新鮮な野菜や果物も。季節を感じられるラインナップ 【5】菓子パンや和菓子、栄養ドリンクなどの食品に加え、日用品も揃う



屋外へ出る機会づくりにつながっています。また、低栄養の問題を抱える方に対する関心を高めることや、欲しい食材を購入することによる食事摂取量の改善も目指しています。

楽しんで買い物をすることで、川俣町で暮らす高齢者が心身ともに健康に過ごすための一助となるよう、今後の展開を考えていきます。

山間部の高齢者を救う！ 楽しみながら買い物をして リハビリ・孤立防止に

移動
スーパーで
高齢者を元気に
〈福島〉
複合施設なでしこ川俣
理学療法士
押切貴志



当施設では令和3年9月から通所リハビリテーションの利用者を対象に、「移動スーパーとくし丸」を利用しています。とくし丸は全国に展開し、各地の店舗型スーパーと提携して買い物に不便な地域を回る移動スーパー。店舗に並んでいる商品を軽トラックいっぱい積んで利用者の自宅まで来てくれるため、「買い物難民」と呼ばれている方々の強い味方となっています。とくし丸を利用することになったきっかけは、リハビリ中の利用者からの「買い物に行きたいけど行けない」のひとこと。他にも「買い物をしたい」という希望や、「できないからしていない」といった諦めの声がかかれたことからニーズを感じ、

現在、とくし丸は週に1回、当該施設の玄関先まで来てくれます。当該施設では金額の計算や買い物中の移動もリハビリの一環と捉えており、持参できる金額は2000円まで。利用者には予算内に収めるために金額を確

買い物はリハビリ機会の宝庫

とくし丸の利用を検討し始めました。当該施設のある川俣町は当初、とくし丸の展開エリアではありませんでしたが、とくし丸本部に問い合わせたところ「もうすぐ川俣でも始まりますよ」とのこと。そこで、買い物もたやす効果やクリアすべき課題、その対策などについて話し合いを重ね、利用開始へとつなげることができました。



【1】職員が付き添い、歩きながら買い物を楽しむ利用者。「豆腐があるね」「冷凍うどんが欲しいな」——職員と利用者が楽しそうに話す
【2】「どの給もあるのか」とうれしそうな利用者。欲しい商品をリクエストすれば次回訪問時に持ってきてもらえる。予算内に収めるため金額を考えながら買い物をしなう。計算もリハビリの一環





済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を策定しました。
無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。
だれも排除されないまちづくりを目指し、
全支部・施設が1696事業を展開します。

産前早期から産後まで親子を支援 アウトリーチ型サポート



〈大阪〉吹田病院

「おやこ健康サポートプログラム（通称・なでしこキラキラWAY）」のキックオフイベントとして、6月30日に「第一回産前期ケアセミナー」を開催し、地域の保健師等と院内職員の総勢70人が参加しました。当院にはアドバンス助産師が18人います。キラキラWAYは、産前早期から出



「学生服ツナグプロジェクト」

静岡県済生会

4月26日～5月31日の間、静岡県済生会総合病院と小鹿なでしこ苑に設置した学生服回収ボックスで回収された約100着を、学生服リユースショップさくらから静岡店に寄贈しました。不要になった学生服を回収し、必要な家庭へ安価で提供するとともに、学生服の査定相当額は内閣府の「子どもの未来応援基金」を通じ、全国の子ども支援団体に寄付される「学生服ツナグプロジェクト」へ繋がります。高齢者による刺繍取り作業、障害者就労支援施設での洗濯、引きこもり支援としてアイロンがけの依頼など、雇用創出にもなります。

産不安などへのサポートを実施するとともに、産後は定期的な訪問型母子健診等を提供するアウトリーチ型サポートを行ない、緊急時等、行政や院内多職種で連携していくことを目的としています。村上志保副看護部長は「病院で待っているだけでなく、親子にとっての地域の支援者として、成長を見守る人たちがツールとしても使っていたきたい」と話しました。当日は、関係機関の職員と当院産科医や小児科医、看護師・助産師・ソーシャルワーカーの意見交換会も行なわれました。

MSW 中村悠子
(福祉医療支援課)



フードパントリー 「MerryTable」 希望者は生活相談も



院内の一角が、菓子や飲料、生鮮食品など多くの人からの支援で彩られる「楽しい場」に



〈東京〉向島病院

墨田区北部のひとり親世帯を対象に、フードパントリーを7月8日に開催しました。この取り組みは、塚田信廣院長、笠松英朗前事務部長、有志職員一同によって立ち上げたもので「MerryTable（楽しい食卓）」と

命名。月1回のペースで開催し、7月で8回目を数えます。墨田区の厚生課生活支援担当とも連携しており、希望者は生活相談も一緒にできます。回を重ねるごとに利用者が増え、今では個人・地元企業の協賛やご支援をいただけるようになりました。

なお今回は、足立区の貧困家庭支援の取り組み「あだちキッズカフェ」でも協働しているビル&メリンダ・ゲイツ財団の柏倉美保子さんが応援に駆けつけてくれました。こちらについては、済生会のソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア「シンク！」に詳しく掲載

されています。
(済生記者 加藤建志)



塚田院長（左端）、笠原前事務部長（右から2番目）、柏倉さん（右端）と当院の有志職員



生活困窮者支援ネットワーク 協議会で顔の見える関係づくり



〈埼玉〉川口総合病院

第15回生活困窮者支援ネットワーク協議会を6月28日に開催し、43機関61人の参加がありました。

大分県地域生活定着支援センター

地域共生社会の実現に向け 刑余者支援を呼びかけ

6月21日、大分大学で開催



この会議の目的は、各地で推進される重層的支援体制整備事業の進捗状況について共有すること。行政や福祉機関職員、学生も多く参加した場での刑余者支援の呼びかけが、たくさんの人の心に届くことを期待しています。

(相談員主査 大田黒ゆき)

食品・生理用品の配布と相談会を開催

〈栃木〉宇都宮病院

今回は川口市福祉部福祉総務課石川哲也氏に、重層的支援体制整備事業についての市の取り組みについて講義をしていただき、その後「相談しやすい環境に必要なもの」をテーマに、ワールドカフェ形式のグループワークを実施しました。

コロナ禍ではオンライン参加者も多かったのですが、今回は会場参加者が8割超に。「通常の支援では会うことができない人たちと顔見知りになれる貴重な機会です、大変助かります」などの意見がありました。

今後も地域共生社会の実現に向け、地域関係機関と顔の見える関係づくりに取り組んでいきます。

(医療福祉事業課 佐藤静香)



秋山綾香

フードバンクうつのみやと共催で、6月24日、今年度2回目の食品配布(兼)相談会を開催しました。

会場のフードバンクうつのみやが丘支所には、学生や子育て世代など幅広い年代の70人が集結。「食費の負担が増え、生活への影響が大きくなっている」「電気代やガソリン代すべ

が値上がりし、毎日生活が苦しく先が見えない」など、口々に生計の苦しさを訴えました。

相談員として参加した稲見一美地域連携課長(MSW)は「困っていても、誰にも助けを求めない人が多い。気軽に相談できる存在が地域の中にあることを、このような相談会を通じて周知させ、誰かを頼ってもいいというメッセージを発信し続けていきたい」と話しました。

当日は食料品のほか、宇都宮市つながりサポート女性支援事業の一環で、生理用品を無料で配布しました。

フードドライブとともに 初の学用品ドライブを開催

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

6月12日から30日まで、職員や患者さんに未開封の食品の寄付をお願いしました。また、今回初の試みとして、鉛筆やノート、タオルや靴下など、学用品にまで間口を広げて寄付を呼びかけました。

その結果、食品は256点(内容量約35キロ)、学用品346点の寄付が集まりました。中には新聞の募集記事を目にして、

「使ってほしい」と鉛筆などをたくさん持参してくれた人もいました。

「病院なら家の近くのので持って行きやすい」という声を耳にしたときには、地域の中にある病院でこの活動を行う意義を感じることができました。食品はNPOフードバンク飯塚へ、学用品はフリースクール「みんなのおうち」に持参する予定です。

(地域医療連携課 濱崎妃沙子)



〈群馬〉前橋病院

フードバンクへ 初の備蓄品寄付

6月20日、当院の災害備蓄品の一部(缶詰56ケース、755キロ)を、フードバンクまえばしに寄付しました。

なでしこプランの一環で、当院と老健あずま荘の全職員は年2回、自宅にある食料品を持ち寄りフードバンクに寄付しています。今回が初めて、「当院の備蓄品を寄付してはどうか」と、栄養科が管

財課に打診したことがきっかけです。

他部署からの働きかけでなでしこプランの実施につながったことで、少しずつ院内になでしこプランの活動が浸透しているのだと実感しました。

今年度は備蓄品の寄付に加え、例年通り7月と1月にフードドライブを実施する予定です。

(医療福祉相談課 眞塩知佳)



Text: みやじまなおみ
Photos: 吉川信之

Hair & Make-up: 片桐直樹 (EFFECTOR)
Styling: 岡本健太郎

「いい作品になるために必要な人」 そう思われる役者であり続けたい

新世代をリードする演劇人・加藤拓也氏から厚い信頼を置かれ、8月からの舞台『いつぞやは』で重要な役割を担う。「加藤くんは役者を実によく見ています。『今の芝居はやり過ぎですね』『橋本さん、2ページ前の3行目から感情の流れがうまくいっていませんね』……僕はどちら

らかという戯曲をロジカルに分析し計算しながら役をつくるタイプですが、その過程も見透かされているので、彼に呼ばれるのはうれしい反面すごく怖い存在だし、だからこそ信頼できる。自分の精神力と体力を賭けて臨むべき芝居だと思っています」

はしもと・あつし 1987年生まれ、東京都出身。2004年、ドラマ『WATER BOYS2』で俳優デビュー。以降、舞台、映像両分野で活躍。舞台では、栗山民也、白井晃、鄭義信、ケラリーノ・サンドロヴィッチ、山内ケンジ、小川絵梨子、加藤拓也など、演劇界を代表する演出家の舞台への出演が続いている。最近の出演作に、舞台『サンソールイ16世の首を刎ねた男』『ザ・ドクター』『温暖化の秋—hot autumn—』、加藤拓也と共に企画から立ち上げた『もはやしずか』、TVドラマ『それってバクリじゃないですか?』『大奥』、主演映画『よっす、おまたせ、じゃあまたね。』などがある。

劇中、橋本さん演じる松坂は、死に向かう主人公からあることを頼まれるが、やんわり拒否してしまう。そんな松坂に対して、「仕事に追われて、本当に大切にしないか」と考察。「ただ、僕も共通する部分は多い。忙しさにかまけてメールを返さなかったり、祖母を亡くしたあとで『もつと話しておけばよかった』と後悔したり。誰しもが経験する話なので、松坂を通してお客さまにもそれを感じてもらえたらと思います」

舞台『いつぞやは』

かつて一緒に活動していた劇団仲間のところに、一人の男が訪ねてきた。故郷に帰る前に顔を見にやってきたというのだが、淡々と語り出した彼の近況は……。その話をきっかけに昔の仲間が集まることになり、同年代の男女が繰り広げる会話から、それぞれが抱える悩みや思い、リアルな現実が浮かび上がってくる。そして、故郷に戻った男には、シングルマザーとなっていた同級生との再会が待っていた。

■作・演出：加藤拓也

■出演：窪田正孝、橋本淳、夏帆、今井隆文、豊田エリー、鈴木杏

〈東京公演〉8月26日(土)～10月1日(日) シアタートラム

〈大阪公演〉10月4日(水)～10月9日(月・祝) 森ノ宮ピロティホール



橋本

Atsushi Hashimoto

淳

演劇界を代表する演出家からラブコールの絶えない俳優の一人、橋本淳さん。役を緻密につくり込んでいるのに素っぽく見える、絶妙な演技が「いい作品に欠かせない人」として信頼を集めています。そんな実力派、橋本さんに新作舞台への意気込みを聞きました。



Vol. 159

口福につぼん

吉井省一



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

白熊

《天文館むじゃき》

鹿児島県
鹿児島市

し、昭和24年から販売を開始しました。
暑い夏を乗り切る
鹿児島名物スイーツ
本店は鹿児島一の繁華街「天文館」にあり、お店の前では薩摩弁の「おじゃつたもんせ（いらっしやいませ）」の看板を持った白熊のキャラクター
いと、本物の白熊の剥製、そして巨大な白熊（こちらにはスイーツのオブジェが迎えてくれます。
開発当初は白蜜や赤蜜をかけた



ポリウム感に圧倒される!! 店内で出されるレギュラーサイズ。軽やかな口当たりで、結構完食できてしまうという

ただのシンプルなかき氷だったそうです。いちごにミルクをかける要領で、氷に練乳をかけてみましたが、これではさすがに甘すぎ。そこから改良を重ね、さっぱりした味わいに仕上げた秘伝の自家製ミルクと蜜をかけることで、ベースの味が完成しました。
見た目に彩りを添えるため、さいころ型にカットしたフルーツや、十六寸豆（いんげん豆）を加え、アンゼリカ（せり科のハーブの茎を蜜煮にして乾燥させた製菓材料）、チェリー、レーズンをトッピング。その配置が



“白熊”が誕生した鹿児島市は、南国の力強い陽光とダイナミックな景観が印象的。写真は市内・城山展望台から望む桜島
©鹿児島観光コンベンション協会

キーンと痛くなりますが、氷が粗くなくてふわふわしていたり、トッピングが多い方が痛くなり、にくいと言われています。その点でも「白熊」はおすすめ。また、1種類と思われがちですが、今やバリエーションも豊富。ぜひご期待ください。
「白熊」は昭和22年に「天文館むじゃき」創業者の久保武氏が考案

「暑いですね」があいさつ代わりに、この季節。青い波の絵の上に赤い太文字で「氷」と書かれた旗がなびくかき氷屋を街で見かけると、ついふらふらと入りたくなってしまいます。夏祭りやイベント会場でも、かき氷の屋台にはお客さんがたくさん集まり、まさに今が、かき氷の盛り時。
かき氷系の中でも特に人気を呼んでいるのが、フルーツがたっぷりのった「白熊」。最近ではコンビニで見かけるなど知名度も全国区です。今回は本場鹿児島で元祖といわれる「天文館むじゃき」のものをご紹介します。かき氷を食べるとこめかみが

をはじめ、「チョコレート白熊」「ストロベリー白熊」「宇治金時」「ミルク金時」「銀時」の6種類の詰合せ。
まずは伝統の「白熊」から。見た目の印象は、かき氷のサクサクとした感じよりもふわつとしたほんのり雪のように。てっぺんのレーズンやチェリーが、ネーミングの由来となつている白熊の顔を連想させます。自分で置き直して、好みの表情を作るのも楽

白熊の顔に似ていたことから名前が付いたと言われています。毎年6月に開催される「白熊誕生祭」では、当時の「白熊」を再現して地元の方たちにも好評を得ています。
チョコや宇治茶など6種類の味が勢ぞろい
お店で食べられるのは、レギ



本店前で白熊たちがお出迎え。観光客がつい足を止めて写真を撮る、天文館通りの名所でもある

ユラーとベビーの2サイズ。レギュラーといっても直径約15cm、高さ17、18cmと大きいので、2人でシェアする方もいるようです。今回は、どなたでも食べられるよう、一回り小さいベビーサイズを選びました。
お取り寄せできる種類は10種ほどありますが、今回選んだセットは、スタンダードな「白熊」



お店で提供されるベビーサイズは、こぼれんばかりの盛り付け。お取り寄せ品にも、この魅力が生きるよう様々な工夫が

しいかもしれません。
スプーンを挿すと、思った以上にふわつとした感触。口の中でなめらかに溶けていきます。ミルクと蜜がしつこくなくて、ちょうどいい甘さ。フルーツもたっぷりのついでにミルクと蜜との相性も抜群。後を引くスイーツとはこのこと。
「チョコレート白熊」は、チョコの甘さと苦みが本格派。なるほど、かき氷にもチョコは合うんですね。
「ストロベリー白熊」はいちごの果肉入りソースがトロリとかかっていてフルーティー。
抹茶の香りが香ばしい「宇治金時」は、色合い的にはもはや白熊ではないのですが、味はふわふわの氷に宇治茶と小豆のコンビがぴったり。
「ミルク金時」もこだわりのミルクと蜜が小豆の甘さと引き立て合いながら絶妙な味わい。
最後に「銀時」。こちらは十六寸豆がたっぷり入っていて豆好きにはたまりません。ご年配の方に人気が高い理由がわかります。
まだまだ暑い日が続きますが、ひんやり美味しい「白熊」で元気に乗り越えてまいりましょう。



白熊 ベビーセットA
[白熊・ストロベリー白熊・チョコレート白熊・宇治金時・ミルク金時・銀時]
各330ml 計6個
3,300円+箱代210円+ドライアイス等630円(税込・送料別)
お取り寄せ・お問い合わせは
天文館むじゃき 〒892-0843 鹿児島県鹿児島市千日町5街区8号
TEL:099-222-6904 FAX:099-222-8379
受付時間:10:00~
ホームページ: https://mujiyaki.co.jp

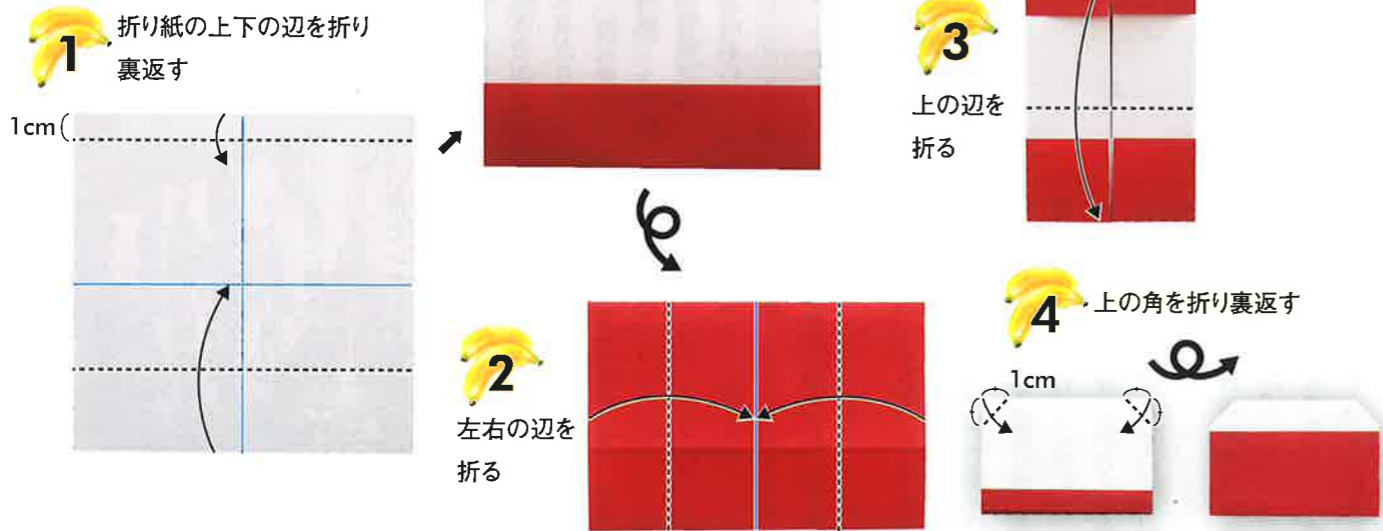


フルーツ機関車 しゅっぱつしんこう

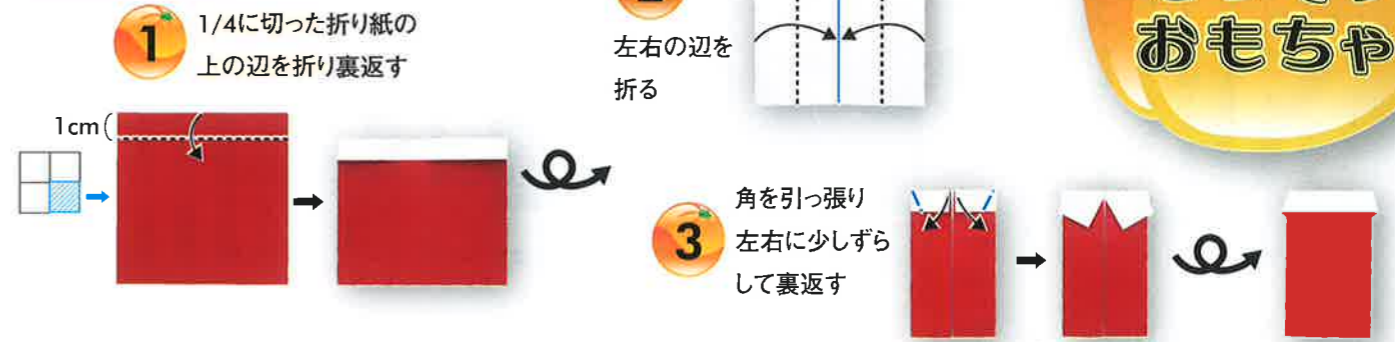


--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

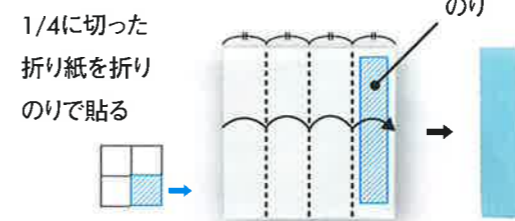
車体 A



車体 B



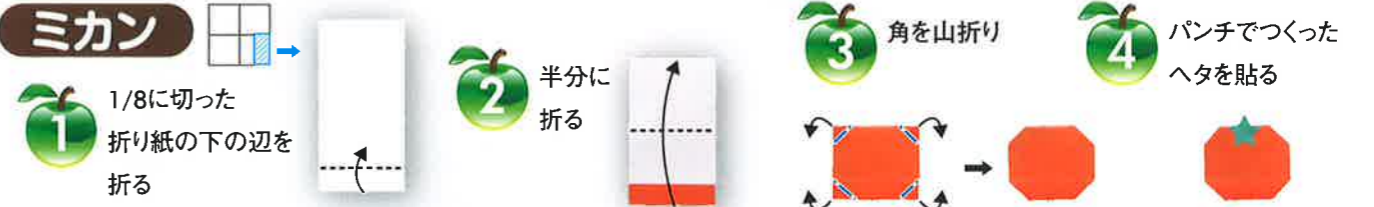
えんとつ



機関車



ミカン



リンゴ



パイナップル



完成

フルーツを車体Aに乗せる



【いまいみさ】
手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えていきます。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など38冊。2011年から、小学校2年の教科書「こくご」(三省堂版)にも登場。

動画もcheck!

車体の内側に
ひもをはって連結して
フルーツをのせてね

作品・折り図：いまいみさ
おりがみ協力：株式会社トーヨー



令和5年度済生会学会に向けて
熊本県済生会職員心を一つに。

topics

済生会学会イベント 400人超が参加

熊本病院

来年1月に熊本で開催する第76回済生会学会のプレイベントとして、7月13日に記念講演会を開催しました。特別講演講師に北里柴三郎博士のひ孫にあたる北里英郎先生（北里柴三郎記念館館長／北里大学名誉教授）を招待。「感染症の歴史と北里柴三郎の戦い」と題してご講演をいただきました。

また、潮谷義子済生会会長、小野友道元熊本県済生会理事にご臨席をいただきました。400人を超える職員が参加し、北里博士と熊本、そして済生会との関わりを感じながら講演に聞き入っていました。

（済生記者 東 賢剛）

★3年前のコロナでの中止を経て45年ぶりのリベンジ開催ですね。学会テーマ「命を支える杖」とは何か楽しみです。

（本部広報室 杉山菜央）



〈大阪〉中津病院

1年目研修医が縫合実習

毎年恒例の研修医向け縫合実習を6月17日に行ないました。今年は1年目研修医11人が参加。新関亮部長ほか9人の外科医師の直接指導のもと、さまざまな結びや縫合結紮の方法やコツを学びました。

初めは慣れない手つきで何度同じ動きを繰り返してしま

たが、実習終了時には全員が縫合結紮の手順を理解。腹腔鏡シミュレーターにおいても成功経験を得ることができました。終始真剣な表情で手を動かす様子が見られました。

今年度入職の研修医も昨年同様



様、新型コロナウイルスの影響で十分な実習経験を積んでいません。現場に出ることに不安を抱えながら研修をスタートさせています。今回の実習経験が、これから外科をはじめ多くの診療科をローテートする上で助けになると思います。

（人事部 谷田祐香）

〈愛媛〉松山ワークステーション 「シンク！」の取材が 来ました

ドキドキと少しのワクワクが入り混じる空気の中迎えた5月22・23日。済生会のソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア「シンク！」のスタッフが来訪



しました。当施設のモットーは「一人ひとりの夢を応援する」。夢に向けて就労訓練に取り組む利用者さんの今、当施設から巣立ち、夢を一つ実現させた卒業生2人の今、そして支援学校卒業後に新しく加わった2人の今。それぞれを丁寧に取材していたことと過去と現在

岡山外来センター病院

七夕飾りに願いを込めて

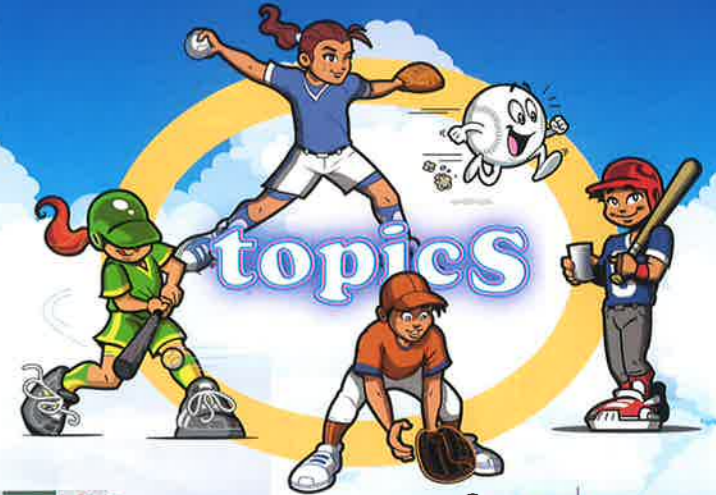
7月3日、地域包括ケア病棟で七夕飾りを作りました。入院中の患者さんに季節を感じてもらえるよう、毎年恒例のイベントとして実施しています。病院スタッフが患者さんと一緒に色紙で星や提灯などを作り、ササには願い事をしたための短冊をつるします。

「早く元気になるって家に帰れますように」「猫ちゃん」とずつと一緒「暮らせませすように」など、心ほっこりするような願



い事や希望も。撮影当日は、患者さんとスタッフが七夕飾りの前に集まり、カセットデッキから流れる童謡に合わせて歌を歌いました。閉鎖的になりがちで制限の多い入院生活を、家族のように寄り添う病棟スタッフとともに、心穏やかに笑顔で過ごしてほしいと心から願いました。

（済生記者 高畑真子）



〔埼玉〕川口総合病院
親善ソフト大会で敢闘賞

◎ 済生会関東ブロック親善ソフトボール大会が、7月8・9日、栃木県のグラウンドで開催されました。

◎ 当院初戦の対戦相手は鴻巣



第43回 済生会関東ブロック親善ソフトボール大会



病院。結果は1ー5の完敗……。しかし、その後の敗退チーム同士でのトーナメントで見事勝ち上がり、「敢闘賞」をいただきました。

佐藤雅彦病院長や清水吉則事務部長も打席に立ち、渾身のバツティング！ 試合はとも盛り返りました。

「今年は監督として試合には出ませんが、来年はプレーイングマネージャーとしてバットを握ります。目指せ！「1回戦突破」と監督を務めた渉外課・高橋亮支課長。真っ黒に日焼けした爽やかな笑顔で、次回大会に向けて意気込みを語りました。

(済生記者 原 衣里奈)

〔埼玉〕加須病院
新ユニホームで参戦

◎ 7月9日の済生会関東ブロック親善ソフトボール大会に、病院移転・名称変更に伴いリニューアルした

新ユニホームで挑みました。天候が心配されるも、当日は絶好のスポーツ日和に。結果は、初戦、第2戦を勝利。進決勝・3位決定戦は惜しくも敗北を喫しましたが、ベスト4という好成績を残すことができました。

チームはさまざまな部署から集まった29人で構成。試



合で頑張っている人への励みや鼓舞、試合後の労いや誉め言葉など、ベンチのメンバーからは自然とポジティブな声援が多くかけられ、大変盛り上がりました。(済生記者 蓬田絵里子)



1 済生会関東ブロック親善ソフトボール大会

〔群馬〕前橋病院
「勝ちに不思議の勝ちあり」
四半世紀ぶりに優勝

◎ それは月に人類が降り立つようなものです。

しかし今大会では、まず始めに1回戦をくじ引きで勝利したこと。即戦力の若手が多く加入したこと。突然の監督不在をチームの結束で克服したこと。さらに、若手が楽しくプレーできる環境、病院幹部等のサポートなど、幸運を引き寄せる多くの「小さな善いこと」の積み重ねがありました。

そして何より、新加入のソフトボール経験者の初回練習での「こんなにちゃんとした練習だと思わなかった」の言葉に優勝の秘密が隠されているように思えます。

群馬県済生会に明るい話題を提供できたこと、またこのチームの一員であることを誇らしく

宇都宮市で7月9日に行なわれた第43回関東ブロック親善ソフトボール大会で、当院が四半世紀ぶりに頂点に立ちました。

優勝を知らないうちにとつて、

〔栃木〕宇都宮病院
あと一步！
熱戦の末、準優勝

◎ 7月3日に宇都宮市柳田緑地で行なわれた第43回済生会関東ブロック親善ソフトボール大会に出

場し、準優勝を飾りました。当日は関東各地から14チーム・約500人が参加。息をのむ熱戦が繰り広げられました。順調に3回戦に勝ち進んだ

当院は、決勝で前橋病院チームと対戦。粘り強くヒットを重ね逆転を試みたものの、あと一歩のところまで試

(総務課係長 藤枝寛明)

合終了となりました。来年は当院主催で、全国済生会親善ソフトボール大会が開かれます。当院チームは開催病院枠で出場が決まっています。今度こそ優勝を目指し、職員一丸となって頑張ります。

(済生記者 川原彩花)



1 済生会関東ブロック親善ソフトボール大会



広島病院

④親善ソフトボール大会
Bゾーンで当院が勝利

第44回済生会中・四国ブロック親善ソフトボール大会が、6月25日に入船山公園で開催されました。

雨天中止や新型コロナウイルス感染症の流行に伴う中止が続き、本大会の開催は実に5年ぶり。中・四国地区9病院が参加し、A・Bの2ゾーンに分かれて熱戦が展開されました。

全国大会をかけたAゾーンの決勝は、初優勝を狙う松山病



院と全国大会常連の西条病院との対戦。迫力のあるピッチングと強力打線で松山が西条を圧倒し初優勝、全国大会初出場を決めました。

Bゾーンでは広島病院が勝利。5年ぶりの大会は盛り上がりを見せました。

(済生記者 足利麻里子)

長崎病院

⑤決勝トーナメントを逃す

6月25日、4年ぶりの開催となった「九州ブロック親善ソフトボール大会」に満を持して出場しました。

院長の衛藤正雄総監督、副院

長の若澤潔人監督をはじめ選手21人でAパート昇格を目指して挑みました。選手の高齢化が進む中、今年は若手の補強に力を入れ、練習も繰り返し行ないました。

結果は、

今回当番病

院の二日市

病院と初戦

を迎え、1

回ウラに看

護師小川亘

選手の3ラ

ンホームラ

ンで先制も、

終盤に逆転

されて敗戦。

2回戦は日

向病院と対

戦し、チー

ム力を発揮

し5-3で

見事勝利し

ました。

残念なが

ら決勝トー

ナメントに

は進めませ

んでしたが、

選手全員の

素晴らしい

素晴らしい



プレーに、応援に駆け付けたスタッフも感動する姿が見られました。

(ソフトボール事務局

河野太祐)

③来年は絶対に勝つぞ！

〈宮崎〉日向病院

6月25日に行なわれた、済生会九州ブロック親善ソフトボール大会に出場しました。コロナ禍で開催が見送られ続け、ようやくこの日を迎えることができ

ました。

試合に向けて練習会を行ない、当日参加できない職員も加わるなど、久しぶりの職員スポーツ行事に院内は活気にあふれました。

当日は福岡総合病院と長崎病

院と対戦。残念ながら負けてし



①4年ぶりに
ソフトボール大会

〈福岡〉二日市病院

2019年の宮崎大会以降4年ぶりの「済生会九州ブロック親善ソフトボール大会」が、6月25日、佐賀県基山町基山総合運動公園で開催されました。

(済生記者 村尾 愛)

なりました。選手も応援も精いっぱい声を出し、たたえ合い、励まし合い、笑い合って大いに盛り上がりました。

来年は「絶対に勝つぞ！」と心に決めて会場をあとにしました。

(済生記者 久富大史)



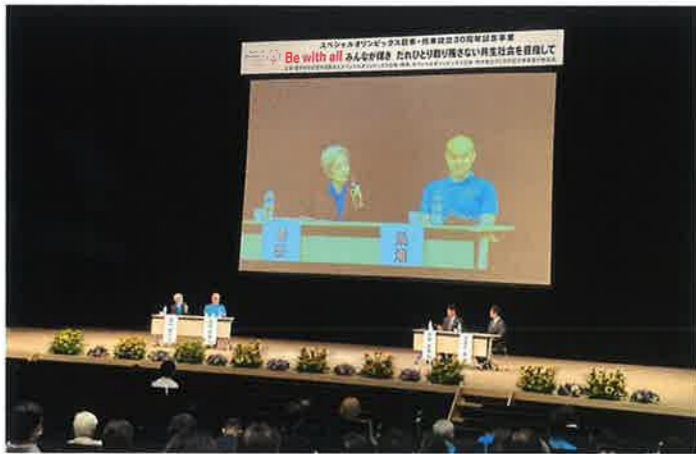
Aパートは4チーム総当たり戦で3チームが勝率で並びましたが、熊本病院が見事1位と

topics

「私が率先して取り組みたいテーマは、将来の医療従事者の増

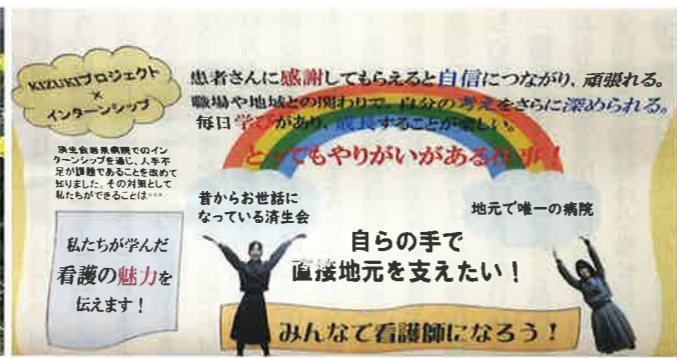
インターンシップ体験者からエネルギーをもらう

〈岩手〉岩泉病院



約700人の聴衆を前に、自身のアスリートとしての経験や、コーチとして後進の育成について話をし、潮谷理事長から「素晴らしいコメントでしたね」とのひと言もありました。
(済生記者 東賢剛)

加に貢献すること」
5月31日に当院でインターンシップを終えた岩泉高校2年・遠藤未羽さんが、インターンシップ体験について高校で発表し



当院リハビリ部は今年春、新入職員2人と、系列の老健施設・大牟田ライフケア院から臨床研修スタッフ1人を迎えました。
コロナ禍以前は西日本一の実地研修見学受け入れ実績を誇る当院。理学療法士新人職員研修ガイドラインをもとに、複数スタッフによる1年間の教育システムを実施しています。
特に今年の入職者はコロナ禍で授業はオンライン、臨床実習も従来の学生より経験が積み重なった世代です。そのため、座

コロナ禍世代に配慮した臨床研修

〈福岡〉大牟田病院

(済生記者 中嶋亮三)

「とても若々しくエネルギーをいただく内容で頼もしく感じる」「将来が楽しみ」と職員からも大きな反響がありました。
(済生記者 中嶋亮三)



学から触診や運動療法、日常生活動作介助・指導方法まで、各認定理学療法士や資格保持者が丁寧に指導に当たっています。
また、臨床実習生も交えた多職種合同の勉強会を週1回実施。リハビリ室は毎日活気にあふれ、新人たちは「患者さんへの感謝の気持ち忘れずに一日一日全力で頑張っていきます」と意気込みを語りました。
(リハビリテーション科長 稲吉直哉)



安部副院長(右)と岡山済生会総合病院の今谷潤也副院長

安部副院長がシンガポールで講演

〈山口〉下関総合病院

5月31日～6月3日にシンガポールで行なわれた「13th APFSSH, 9th APFSHT & 8th APWA CONGRESS」で、日本から招待された9人の医師の1人として、当院整形外科の安部幸雄副院長が講演しました。
日常頻繁に診療する橈骨遠位端骨折に対し、手関節鏡による病態把握、治療結果を報告したもので、症例数600超は世界屈指。関節内骨片の鏡視下

講演中にもかかわらず歓声が上がりました。
安部副院長はこれまでと同様の講演を世界各国で行なっており、国内・海外からの医師の手術見学も受け入れています。
「手関節の外傷、慢性疾患の治療における手関節鏡の介入は年々盛んとなっております。今後も手術手技の向上・普及に努めていきます」と講演を結びました。
(済生記者 下村桂子)

久しぶりの七夕行事

〈山形〉特養やまのべ荘

今までは新型コロナウイルス対策のためにさまざまな行事を中止せざるを得ない状況でしたが、5月8日の第5類移行後、少しずつ再開しています。
今回は七夕行事として、入所者のみなさんと一緒に願いごとを書いた短冊を準備しました。みなさんの願いごとはそれぞれですが、「おいしい物をいっぱい食べたい」や「健康でいつまでも長生きしたい」などの願い



が多くありました。
そして7月5日には、短冊を吊るしたササの木の下で、みなさんと一緒に七夕を彩った和菓

スペシャルオリンピックス シンポジストとして登壇

熊本病院

(介護職員 佐藤孝浩)

当院職員の桑畑宜雄さんは、5月28日に熊本城ホールで開催された「スペシャルオリンピックス日本・熊本30周年記念式典」に、シンポジストとして登壇しました。

スペシャルオリンピックス日本・熊本は、スポーツを通して知的障害のある人の社会参加に取り組み熊本県の組織で、済生会の潮谷義子会長が理事長を務めています。
普段は当院予防医療センターのレストランで調理スタッフとして勤務する桑畑さんですが、幼少期からスペシャルオリンピックスに選手として出場。当院に勤務後も競泳の全国大会で優勝するなど、精力的に活動しています。



〈山形〉 特養ながまち荘
就労支援の取り組み
シルバー産業新聞に

当荘の多様な人材雇用の取り組みが、7月10日付のシルバー産業新聞に掲載されました。当荘では2012年から保護観察者の施設での社会貢献活動の受け入れを実施。18年から



は満期釈放後の刑余者の雇用をスタートしました。刑余者が再び犯罪に手を染めない環境を作ることが非常に重要であると考えており、これまで11人を雇い入れ、現在5人が勤務しています。障害者雇用率についても、当荘は法定雇用率の2・3%を大

〈愛媛〉 松山乳児保育園
試食会が大切な
保護者交流の場に

コロナ禍で中止となっていた保育食の試食会と各クラスでの懇談会を6月16日に行ない、29人の保護者が参加しました。試食したのは、ささみとチーズのサラダ・米粉の豆腐ドーナツ。素材の味を生かした味の付け方や、子どもが食べやすい食材の切り方などの質問に、栄養士が丁寧に答えました。

後日、「試食会のレシピでサラダを作ると、子どもが喜んで食べてくれました」といううれしい報告をもらいました。懇談会は、初めて会うお母さんたちも帰る頃には話が止まらないほど打ち解けた場に。「身近なお母さんたちの話は、

きく上回る5・0%を達成。精神・発達障害者しごとサポート1の講座を既存職員33人が受講済みで、障害者が能力を生かして仕事できるようサポートしています。このほか、高齢者雇用も積極的に進んでいます。

ネットやテレビより参考になる」との感想を多くいただき、会って話をするこの大切さを改めて感じました。



静岡済生会総合病院
子どもたちの治療の支えに
キワニス・ドール寄贈

6月19日、静岡キワニスクラブから寄贈された手作りのキワ



ニス・ドール35体の贈呈式を、療育センター令和で行ないました。キワニス・ドールは、子どもが入院した際に検査や治療などの説明に使われる白地の人形で

目指すは済生会のブランディング

〈神奈川〉 若草病院

6月1日、当院に広報室が誕生しました。メンバーは、広報室長に酒井直樹副院長兼診療部長。ほかに地域医療連携室1人、医事課2人、オブザーバーとして森眞寿副院長兼事務長にも協力を仰ぎ、計6人となります。

す。同クラブからは昨年12月にも50体の寄贈があり、今回は2回目となります。「検査や治療の説明のためだけでなく、子どもが人形に自分の感情を吐き出すなど、入院中の精神的な支えにもなっている」と当院小児科・HPS（ホスピタル・ブレイ・スペシャリスト）の望月ます美さん。

ドールを受け取った療育センター令和の石山純三施設長は「子どもの入院に寄り添う存在として活用させていただきま

す」と謝意を述べました。

ある雨の日、利用者さんたちと一緒に市立図書館に足を運んでみました。ルンルン気分です。入りに着いた途端、足が止まってしまいました。「自由に見ていいですよ」と声をかけたものの、図書館の膨大な本の量に圧倒されてしまったのです。各コーナーを司書さんに案内してもら



はじめての図書館

熊本福祉センター

ほほえみ生活介護では、新たな余暇活動として熊本市立図書館の団体利用に登録し、図書利用を始めました。この制度では2カ月間に最大300冊借りることができま

院を中心に7施設で構成される「横浜金沢医療福祉センター」の周知を図ること。さらなる地域連携を進め、今まで以上に地域貢献ができるように頑張ります。

うと、「ジブリ、見たい」「漫画はどこ？」と徐々に読みたい本が浮かんできたようで、思い思いに本を手にとっていました。雑誌や漫画など一人ずつ読みたい本を借りて施設に持ち帰り、読書タイムを楽しんでいます。

（生活支援員 坂井公子）

〈愛媛〉 松山病院
エキスパート医師を迎え
ワークシヨップ

当院循環器内科は、3月と5月に冠動脈カテーテル治療のワークシヨップを開催しました。当院では2020年の施設基準改定により、冠動脈の石灰化病変に治療効果を発揮する高速回転アテレクトミー（ロータ



ブレーター）が使用可能となったほか、今年からはダイアモンドバックという新デバイスも導入。しかし、まだ十分に使いこなせていないのが現状です。

そこで、3月15日に倉敷中央病院循環器内科・田中裕之先生、5月24日に京都桂病院心臓血管センター・小林智子先生を迎え、石灰化病変患者のカテーテル治療を実際に行なっていたいただきました。

お昼には講演会も。エキスパート医師の手法と知見に触れることができ、スタッフ一同大変勉強になり、モチベーション向上にもつながりました。

（済生記者 酒井千夏）

〈茨城〉 水戸済生会総合病院
救急病棟を再整備

水戸医療圏で逼迫する高度急性期医療体制の拡充を図るため、本館2階病棟を改修し、ICU10床を再整備しました。

昨年1月に始まった工事は年末まで続き、今年2月に新ICUを開棟しました。なお、これまでのICU10床は「EHCU10床」に変更してER専用病床としました。



企画段階から携わってきたICUの小川恵子課長は「患者さんが安全・安楽なケアが受けられ、ECMOやIMPELLA、生体監視モニターなどが必要な重症患者さんに、これまで以上に高度な治療を提供できるよう、認定看護師特定看護師を中心に地域の期待

に添えていきます」と今後の運用について意気込みを語りました。（済生記者 今野正俊）

〈山口〉 豊浦病院
県優良職員表彰に2人

本年度の山口県病院優良職員表彰の伝達式を、6月19日に当院の応接室で行ないました。

社団法人山口県病院協会が病院に勤務する職員を対象に、長年勤務しかつ勤務成績の優秀な



職員を表彰するもので、当院からは岡田理副院長と中野寿長医療技術部統括マネージャーが受賞しました。

中司謙二院長から表彰状が授

与されると、受賞した二人は「このような素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。今後とも頑張っていきますので、よろしく願います」と感想を述べました。

（済生記者 西田千鶴）

〈町探検〉の授業で小学生が来園

（愛媛） 松山乳児保育園

当初のすぐそばにある宮前小学校の3年生30人が6月28日、「町探検」の授業で施設見学に訪れました。以前から保育園に行ってみたい、話を聞いてみたいという子どもたちの希望を小学校から聞いており、今回、初めて実現しました。

最初は少し緊張気味だった小学生たちも、園庭で遊ぶ1、2歳児や園内で過ごす0歳児の様子を見るとすぐ笑顔に。「小さい」「かわいい」と言いながら、園児との触れ合いを楽しんでいました。

調理室や調乳室も真剣に観察。離乳食と幼児食の違いや、食器が小さいことなどの気づきがあ

〈兵庫〉 特養ふじの里
「麺の日」が復活

コロナ禍で閉鎖を余儀なくされていた「麺の日」が復活し、5月21日、再開を待っていた約30人の参加者が地域福祉センターを訪れました。

「麺の日」は、有名な有馬温泉に近い神戸市東有野台地域のふれあいのまちづくり協議会等が中心となり、平成24年から毎月1回催しているイベント。センター内でうどんが一杯100円で提供されます。

コロナ前は常時100人超のお客さんでにぎわう人気振りで、地域の高齢者や併設する児童館の子どもたちもこの日を楽しみにしていました。



がり、保育園に興味を持ってくれていることをうれしく思いました。

（済生記者 別府絵里）

再開は、まさしく地域住民の熱い想いの賜物。材料費の高騰で一杯150円に値上がりしましたが、おいしいうどんを食べられる機会が戻ってきました。（地域支え合い推進員 市川 炎）

4年ぶりの済生丸実習がスタート!

岡山済生会看護専門学校では、3年生の授業で済生丸での実習



岡山済生会看護専門学校
を行なっています。

この3年間はコロナ禍のため中止していましたが、今年度は3年生76人全員が岡山県の九つの島を訪れ、実習を行なう予定です。

6月12日に今年度最初の済生丸実習として、備前市の大多府島へ。到着するとすでに島民の方々が待っていて、健診や身体測定をしながらたくさんのお話を聞くことができました。

事前学習では触れていなかった事柄も多く、学生たちはびっくり。早速、地域の特徴や島の生活に合わせた健康管理や看護の必要性を学ぶことができ、貴重な経験となった1日でした。
(専任教員 仕田原裕子)

〈愛媛〉西条老健いしづち苑 はまかせの通所リハを見学

〈鳥取〉老健はまかせの通所リハビリテーションの運営方法などを参考にするため、6月5日、多職種11人で同施設を見学しました。
同施設の通所リハには入浴サ



ービスがなく、ほとんどの利用者さんが短時間、半日利用です。その背景や経緯は大変興味深く、直接職員の生の声を聴くことができましたことは大きな収穫となりました。

はまかせ職員のみなさんが温かく迎えてくださり、4時間ほどの滞在時間はあっという間に過ぎました。「大変参考になった」「見習うべきところが随所にあり、訪問してよかった」と当苑職員は大満足で帰路につくことができました。

今後の通所リハの方向性について、十分に検討していきたいと思っています。
(事務長心得 曾我部晴美)

〈栃木〉宇都宮病院 穂高律子参与に 日本看護協会会長表彰

日本看護協会通常総会が6月7日に千葉県幕張メッセで開催され、当院看護部の穂高律子参



与が日本看護協会会長表彰を受賞しました。

この表彰は、長年にわたり看護に携わり、医療現場を支えてきた人々の功績をたたえるもので、栃木県から2人、全国で合

計142人が選ばれました。
看護部長として看護提供体制の充実に尽力し、県協会地区理事として地域の多職種連携体制構築に貢献した穂高参与。「患者さんに対し、思いやりのある安全で質の高い看護を提供できるよう、今後も看護部と協力して微力ながら尽力してまいります」と抱負を語りました。
(済生記者 川原彩花)

〈福岡〉二日市病院 検査技師2人を表彰

5月27日、福岡県臨床衛生検査技師会定時総会において、当院の新田誠検査部技師長が功労者知事表彰、畑田祐也検査技師が会長表彰を受賞しました。

新田技師長は平成28年から福岡地区事務局管理運営担当を務め、副地区長を経て令和2年からは地区長に就任。畑田技師は、令和元年より福岡地区学術担当を務め、令和4年からは財務管理担当兼学術担当を務めています。

当院は福岡県筑紫地区唯一の公的医療機関であり、地域医療支援病院、災害拠



点病院でもあります。そのような病院の立ち位置もあり、病院だけでなく地域全体の健康増進のために活動してきたことが、この度の表彰につながりました。
(経営戦略課 木山浩平)

特養までして「香川 相撲甚句の名調子を楽しむ

デイサービスに6月20日、地元「相撲甚句愛好会」の6人が慰問に見えました。
相撲甚句(すもうじんく)とは、大相撲の巡業などで披露される七五調のはやし歌のこと。その土地ならではの名所や物産などを題材にしています。今回は「さぬきうどん」や「四国遍路」「香川名所」などを独特の調子に合わせて披露していただきました。

アカペラの曲に合わせてみながら「ホイ」や「ハア」ドスコイドスコイ」という合いの手を打つなど、利用者さんも久しぶりの慰問の人々との時間を楽しんでいました。

また、認知症にならない7カ条「やわらかあたま」を教えていただきました。「や」(役割を持つ)「わ」(笑う)「ら」(らぶ



ですよ)「か」(会話する)「あ」(気をつけて歩く)「た」(しっかりと食べる)「ま」(学ぶ)を毎日心がけるといふもので、一同「へえ」と納得しました。
(施設長 浄土明大)

奈良病院 佐保川の河川清掃に参加

地元を流れる佐保川の清掃が7月17日に行なわれました。当院は毎回参加しており、今回も職員20人がボランティアとして精を出しました。
8時から清掃開始。空き缶



タバコの吸い殻、お菓子の包装紙などゴミは多種にわたり、わずか1時間ででしたが、たくさんのゴミが集まりました。朝からの炎天下で、参加した人たちは噴き出す汗で大変でした。

「佐保川の清き河原に鳴く千鳥かはづと二つ忘れかねつも」

佐保川は万葉集にもうたわれ、河川敷延長5キロにわたる桜並木は、奈良県有数の桜の名所として人気スポット。病院の窓越しにもお花見ができます。これからも毎春、きれいな桜が見られることでしょう。
(地域連携室副室長 杉山佳延)

〔兵庫〕特養なでしこ神戸
なでしこ神戸創立14周年

なでしこ神戸は今年6月、創立14周年を迎えました。そこで、入居者さん29人そろって記念撮影を行いました。

コロナ対応が5類に移行したこともあり、こうして顔をそろえることができました。カメラ



を向けるとみなさんすてきな笑顔に。昼食の赤飯とサーモンの幽庵焼きにはみなさん舌鼓を打っていました。

地域密着型介護老人福祉施設として開設されたなでしこ神戸は創立以来、地域のさまざまな方々との交流を通して年月を重ねてきました。

コロナ禍のために地域の交流を図ることが難しい時期もありましたが、少しずつ元に戻りつつあります。今後も、以前のよくな施設としての役割を担っていきます。

（なでしこ小規模特養ユニット
リーダー 高木政幸）

〔鳥取〕境港総合病院
中海・宍道湖一斉清掃に
救護担当として参加

6月の環境月間に合わせ、実際に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録されている中海・宍道湖の沿岸で6月11日、一斉清掃が行われました。

当日は鳥取、島根両県周辺の米子市、境港市、安来市、松江市、出雲市の五つの市で、約7000人の市民たちがごみの回収に汗を流しました。



当院からは、境港市会場の救護担当として齋岡亜希子看護師が参加。みなさん安全に清掃活動に取り組み救護要請はなく、齋岡看護師も一緒にごみ袋を手にペットボトルやビニールごみなどの回収を行いました。

今回で17回目を迎えたこの中海・宍道湖一斉清掃。地域の豊かな自然を次世代に引き継ぐため、今後も当院は地域のみなさんと一緒になって活動を続けていきます。

（済生記者 亀尾美子）

長崎病院
地域医療意見交換会を
4年ぶりに顔を合わせて

「令和5年度第一回済生会長崎病院地域医療意見交換会」を6月14日に開催しました。

当日は長崎市内の病院や登録医療機関の先生、長崎大学病院



関係者など48人が出席。

第一部の講演会では、原田陽介呼吸器内科部長が「COVID-19感染症を経験して」、田中沙紀小児科診療科長が「当院小児科診療について」と題して講演を行いました。第二部の意見交換会では、当



移動スーパーがやって来た

〔埼玉〕鴻巣地域包括支援センター
こうのとりの

院の医師・スタッフを交えた103人で意見交換を実施。紹介患者さんの話などさまざまな意見が交わされました。

「久しぶりに直接顔を合わせて話せる機会をつくってくれてありがとう」とのお礼の言葉もあり、意見交換会が地域の医療の架け橋となっていることを感じました。

（済生記者 平川幸子）

鴻巣介護老人保健施設こうのとりの駐車場に、6月28日から毎週水曜に、移動スーパーがやって来るようになりました。巡回ルート見直しに伴い、販売地として協力することになったのです。

販売車には生鮮食品、お惣菜、お菓子など約650の商品が積み、自由に手に取って選べるのは宝探しのようで魅力的。地域の高齢者や子育て中の人など誰もが利用できる、当施設の利用者さんも販

売日を楽しみにしています。「初めて来たの」「それはどこにあった?」と、販売車の周りにはいつの間にか交流の輪が。移動スーパーは買い物ができる

〔山形〕養護（盲）老人ホーム
山静寿

おりがみで兜づくり

当施設で6月21日におりがみ行事を行ない、46人が参加しました。

おりがみのモチーフはエンゼルスの大谷翔平選手がホームランを打った時にかかる兜。視覚障害者の方でも作れるよう、手先の器用な入所者さんにお願し、事前に折り目をつけておく工夫をしました。当日は職員が手順を一つずつ説明しながら、入所者さんに歩調を合わせて折り進めていきました。兜が完成すると、カメラに向かってポーズをとったりかぶってみたりと、思い思



（済生記者 丹 秀樹）

いに楽しんでいました。おりがみの後は、大きな大福を食べてひと休み。入所者さんからは「毎日でもいいな」「最高だ」と大好評の行事となりました。

便利さのほかに、外出のきっかけと地域の新たなつながりをも届けてくれるようです。（精神保健福祉士 石井喜美枝）



第一目標金額
1,000万円

がん患者さまと医師 双方に寄り添う医療技術 手術支援ロボット導入にご寄付を

瀬戸内海を望む今治市は、地域の高齢化が加速しており、がんをはじめとする病気にかかる方も増えることが予想されます。そうした中で、地域医療の安定と充実のために当院が取り組むことにしたのが、新たな医療技術「手術支援ロボット」の導入です。ロボットというと、機械的で温かみの少ない印象を持たれるかもしれませんが、このロボットは手術を受ける患者さんと、手術を提供する医療者、双方の負担を和らげる「人にやさしい」ロボットです。主にがんの手術に用いることを想定しています。手術支援ロボットは世界各地の都市圏で導入が進む一方、当院の予算だけでこの高価なロボットを購入することは、昨今の情勢不安・円安・物価高の影響などで難しい状況です。それでも、今治の地域医療に時代のスタンダードを、そしてもう一歩先の技術を取り入れたいと願い、購入費用のご寄付を募ることといたしました。温かいご寄付を、よろしくお願ひいたします。

済生会今治病院がクラウドファンディングに挑戦

寄付募集期間 開始 7月3日(月) 10時～ 終了 8月31日(木) 23時

ただのご寄付の使い道 手術支援ロボット hinotori の導入費用の一部



クラウドファンディングとは
インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。All inというルールで、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

ご寄付・詳細は
WEBサイトをご覧ください
<https://readyfor.jp/projects/imabari2023>

済生会今治病院 レディーフォー



topics

韓国・大邱保健大学の学生2人が来院

静岡済生会総合病院

韓国・大邱保健大学校社会福祉学科のバク・ジュヨンさんとシン・チェヨンさんが7月7日、当院を訪れました。

この訪問は、大邱保健大学校と静岡県立大学短期大学部との大学間交流協定によるもので、学術交流と医療技術の共有が目的。令和元年以来4年ぶりに行なわれ、院内の施設見学に加え、HPS（ホスピタル・プレイスペシャリスト）の活動について紹介しました。

当院のHPS望月ます美さんは「子どもたちが不安なく検査や治療を受け、病院が嫌な思い出にならないようにと思いい活動している」と説明。2人は、実際に子どもたちに説明を行なう際に使用しているパペットや模型に触れ、韓国ではあまり見ない活動だと驚いた様子でした。

（済生記者 酒井あい）



〈新潟〉特養長和園 ふれあいホッとコンサート

新潟県ゆかりの演奏家が病院や福祉施設などに出向いて行なう県主催の「ふれあいホッとコンサート」が6月30日、当園で開かれました。

今回の演奏者は、尺八の鯨岡



徹氏と箏の藤崎浩子氏によるユニットの「薫風之音」。「おぼろつきよ」「砂山」「春よ来い」など全10曲を演奏しました。

会場には利用者さん40人、職員30人、なでしこ青空保育園長見13人の約80人が集まり、和楽器による唱歌のたえなるしらべに耳を傾けました。

利用者さんからは「昔を思い出して心に沁みました」「全部よかった」と称賛の声が聞かれ、園児たちは「すごかった」と率直な感想を演奏家に伝えていました。（済生記者 西川まゆみ）

神奈川県病院

篠田さん、ありがとうございます

院内ボランティアの篠田正司さんが、6月30日をもって引退されました。

篠田さんには4年半にわたり、主に院内の案内や職員の補助を担当。雨の日には患者さんの傘を畳み、タオルで拭いてあげる光景が目につかびます。

コロナ禍においても、活動の制限やリスクの高まる中で体温測定や手指アルコール消毒、マスク着用のお願ひなど、積極的にお手伝ひいただきました。

院にとって欠かせない存在でした。長年のご尽力に心から感謝申し上げます。感謝状を贈呈しました。

（済生記者 小山友輝）



篠田さんの精力的な活動は患者さんのみならず、職員にも大きな助けとなりました。その明るさと優しさで多くの人に親しまれ、患者さんやご家族から感謝の言葉をいただくことも。病

topics



と民生委員が、地区の親子に楽しい時間を過ごす場として、月2回活動しています。
ニーズに即した地域の生活課題に対し、小さなことかもしれませんがセンターとして取り組むことで地域貢献できればと考えています。

(済生記者 高木裕子)

〈神奈川〉横浜市南部病院 コロナ5類移行後の 情報交換を多機関で実施

「わきあいあいネットワーク研修会」を6月23日に開催しまし

ウクライナの高校生が手術を受けました

昨年12月にウクライナから避難してきた17歳の高校生（ニックネームはサーシャ）が、ウクライナ人の母親とロシア語の通訳の女性とともに4月に当院を受診しました。

脊柱側弯症の手術が必要となり入院したサーシャでしたが、

〈奈良〉中和病院

3年ぶりの院内学会

6月3日、3年ぶりに院内学会を開催し、計12題の発表がありました。

当日は発表者を含め約50人の職員が参加。学会委員長の堤雅弘医師の挨拶に始まり、それぞれの職種の話題にみなさん興味深げに耳を傾けていました。質疑応答では積極的に質問が飛び交い、院内行事ならではのアットホームな雰囲気で行われました。

発表の中には、医療人としての在り方や働き方を考えさせられる内容も。複数の職種で構成される糖尿病委員会の活動発表では、糖尿病に関する患者指導

〈千葉〉習志野病院

言葉が通じにくい上にコロナによる面会制限なども重なり、不安な毎日が続きました。

しかし整形外科の医師と看護師、薬剤師、PTらの懸命な医療、看護により、手術後2週間痛みもなくなり、症状も改善。無事に退院することができ

ました。

退院の許可が下りたとき、母親は涙を流して喜び、スタッフにロシア語で感謝の言葉を投げかけました。

サーシャにこれからどうするのと聞くと、「日本の大学に入つて、いずれは通訳の仕事につきたい」とのこと。頑張れ、サーシャ！

(総務課 佐藤正恵)

強会を開催することで意識変化がみられたことが報告されました。

(済生記者 窪田里奈)

〈神奈川〉若草病院

子育てサロンの情報発信

横浜金沢医療福祉センターでは、若草病院の敷地内に掲示板を2カ所設置し、センター内各施設から地域への情報発信に努めています。

この度、金沢地区子育てサロン「友だちつくり」のお知らせを掲示することにしました。この子育てサロンは赤い羽根共同募金の助成事業で、金沢地域福祉保健計画における子育て支援の取り組みの一つ。当院が立地する金沢地区の主任児童員



病院・施設とつながっているお互いの現状を共有でき、視野が広がった」などの意見があります。

した。

(入退院支援センター 菊地友紀)

〈大阪〉中津病院

3年ぶりの ロビーコンサート

芸術・芸能ボランティアによるロビーコンサートを、7月1日に当院北棟2階エレベーターホール前で開催しました。3年ぶりの再開です。

今回は、職員アンサンブルクラブメンバーの竹本裕子さんによる「ストリートピアノ演奏会」。TVドラマ「コウノドリ」メインテーマの「Baby, God Bless You」な3曲が演奏されました。

看護部のみなさんの協力で何人かの入院患者さんも来場。竹本さんの家族も応援に駆け付け、手拍子しながら和やかな時間を過ごしていました。

来場者は延べ30人でしたが、ほかにも外来の3、4階でピアノ演奏に聞き入っている患者さんの姿を目にし、開催できた喜びを実感しました。

(済生記者 鈴木亜希乃)



〔鳥取〕 境港総合病院
訪問でのワクチン接種

障害者支援施設には、医療行為に抵抗がありコロナワクチン接種が難しい人がいます。「もみの木園」の27歳の通所者さんその一人でした。
医療機関に到着しても車から降りることすら難しい状況。そこで、何とか過ごし慣れた環境でワクチン接種ができないかと家族が市役所に相談、当院に連絡がありました。



「コロナ禍で地域から孤立する人を救いたい！」との思いから、すぐに当院・市役所・施設の3者間で調整。当院医師・看護師が施設を訪問するかたちでのワクチン接種が実現しました。
依頼する医療機関もかかりつけ医もなく困っていたご家族は大喜び。一昨年9月3日に施設を訪れ第1回を、その後も予定通りに接種を済ませ、6月23日に5回目の接種を終えることができました。
(済生記者 亀尾美子)

クラファン大成功！
第三カテーテル室増設へ

〔大阪〕 千里病院

クラウドファンディングで「待った」のきかない命を守る——千里病院の挑戦が6月30日に終了し、目標金額3000万円を大幅に上回る3686万4000円のご寄付をいただきました。

の事態を避けるために、第三カテーテル室増設に向け、クラウドファンディングによる寄付を募りました。
結果は大成功。625人の患者さんやそのご家族などから寄付をいただき、たくさん感謝や応援メッセージに励まされ、胸が熱くなりました。
第三カテーテル室は7月中旬に着工し、年内には稼働する予定です。
(済生記者 秋山みゆき)



近年の症例数増加に伴い、カテーテル治療のニーズが急増しています。当院では緊急症例を断らなければならない最悪

〔神奈川〕 わかくさ保育園
七夕が結ぶ地域との絆

横浜市文化財の旧伊藤博文金沢別邸では4年前から、七夕の時期になると邸宅前に笹竹を立て、園児の短冊を飾ってくださいようになりました。
今年もご連絡をいただき、早速子どもたちは「ウルトラマンになりたい」「おおきくなりたい」などの願い事を書いて邸宅に持参。地域とともに季節行事を楽しみ体験は、幼い子どもたちにとって貴重な機会です。

七夕の日には、乳児も保育士と手をつないで歩いたり、散歩車に乗ったりして七夕飾りの見



学に出発。お土産には機関誌「済生」を携えました。キラキラと風で揺れる笹飾りをじーっと見つめ、短冊を触ろうと手を伸ばす子どもたちの瞳が輝いています。
伝統行事を通して生まれる地域との絆。子どもたちの夢と希望が地域のささやかな力になって、今日も暮らしを潤します。
(済生記者 本倉美穂)

〔北海道〕 小樽病院

中学生が職場訪問
鋭い質問が飛び交う

6月15日、小樽市立長橋中学校の1年生5人が職場訪問に訪れました。職場体験や職場訪問を積極的に受け入れている当院ですが、中学生の受け入れは約4年ぶりです。
最初のオリエンテーションでは緊張していた学生たちでしたが、薬剤室、リハ室、検査室、放射線室と見学して行くにつれて緊張も解けて、事前に調べてきた質問を担当者にぶつけます。診療放射線技師である筆者に

対しても「歯医者さんで写真を撮るとき、エプロンを付けるのはなぜですか？」と質問。理由



は簡単ですが、中学1年生に放射線の人体への影響を説明するのはかなり大変でした。
今回、中学生に事前学習の重要性を改めて教えてもらいました。中学生のみならずこの職場訪問で何かの気付きを得て、将来の職業選びの一助となるとうれしいです。
(済生記者 松尾寛志)

特定行為看護師の
フォロワーシップ研修

福岡総合病院

6月30日、特定行為研修修了者フォローアップ研修をハイブリッド方式で開催し、第1〜3



期生18人と院内外の関係者が参加しました。
研修は3部にわたり、処置に関連した実技での復習や症例検討、修了者による事例報告を実施。特に実技での復習は、研修を振り返るとともに自身の手技を見直す機会となりました。
事例報告では全員が発表を行ないました。互いの経験事例を聞くことは、自身の活動へのヒントにもつながります。常に「内省」しながらより高みを目指す姿を見て誇りを感じました。
当院では今後も研修修了者を支援するとともに、地域で活躍できる特定行為看護師の育成に努めます。
(経営企画課主事 木下昌子)

院内販売再開！
沸き立つ販売ブース

〈茨城〉神栖済生会病院



曜日は市内の指定障害福祉サービス多機能型事業所「ハミングハウス」の利用者さんによる手作りの野菜やパン等が並びます。

正面入口に設置された販売ブースは大変にぎやかで、施設関係者や患者さんともに3年2カ月ぶりに再開できた喜びで沸き返っていました。「来月はいつが販売日なの？」「うちの近所にある施設だね。応援してるよ」などと声を掛けてくれる人も多く、笑顔があふれるひと時が戻ってきました。

（済生記者 江口裕紀）

福井県地域生活定着
支援センター
5県合同で情報交換会

地域生活定着支援センターを受託している5県（熊本、大分、富山、石川、福井）間での情報共有を目的に、5月30日、オンライン情報交換会を行いました。

情報交換会は昨年度から企画し、今回で3回目。各センターでの取り組み、業務の課題、事例紹介等の情報共有のみならず、



職員同士のネットワーク構築にも役立っています。

今回は、全国済生会刑余者等支援推進協議会の森川篤会長も参加。森川会長からは「再犯を繰り返す高齢者、障害者にとつて、刑務所が居場所になるのではなく、地域の中で一緒に暮らせるように役割を持ってもらうことが重要」とのお話がありました。

（社会福祉士 岩本嘉修）

和歌山病院

顔の見える連携を

第15回登録医総会を7月1日、ダイワロイネットホテル和歌山で開催しました。3年ぶりの対面開催とあって、合計で67人の登録医が参加しました。

今回の特別講演は、和歌山県福祉保健部・医療戦略推進班主任の近田真規氏。「地域医療構想を始めとする医療政策の動向」をテーマに発表されました。

院内からは一般演題として、有井一雄外科部長の「たべられない人に消化器外科ができること」と、安武美紗生リウマチ・膠原病科医師の「高齢で発症した治療困難な関節リウマチの1

例」の2題を発表。

多くの先生から「近年ハイブリッドでの勉強会開催が多い中、大変貴重な会だと思えます」と感謝のお言葉をいただきました。

（済生記者 松元靖寿）



静岡済生会総合病院
望月助産師が
看護協会会長表彰

外来助産師の望月聖子さんが「令和4年度公益財団法人日本看護協会会長表彰」を受賞しました。

今回の受賞は、望月さんが助産師として地域医療のため長年にわたり貢献したことが評価されたもの。6月23日にツイーンメッセ静岡で開催された看護協会定時総会で表彰式が行なわれま

した。

静岡県では、望月さんを含め5人の看護協会員が表彰を受けました。受賞にあたり、望月さんは「これからも母と子のために、助産師として微力ながら尽力します」と抱負を述べました。

（済生記者 酒井あい）

チェコのメディカルラリーで世界と交流

〈大阪〉千里病院

チェコ共和国で5月24日〜28日に開催されたメディカルラリー1に、当院救命救急センターから医師1人、看護師2人が参加しました。

メディカルラリーとは、医療チームが特殊メイクを施した模擬患者を診察し、限られた時間内にどれくらい的確に診断と治療を実施できるかを競う技能コンテストのこと。発祥はチェコ、日本では当センターが初めて開催しました。

今回は16カ国から、学生10チーム、チェコ国内44チーム、国際23チーム、指令員26チーム、警察34チームが参加。

伊藤裕介副部長は「500人を超える世界中の医療従事者と交流できて、とても楽しかった



です。たくさん刺激をいただきました。たくさんの感想を述べました。

今年も当院で第20回千里メディカルラリーを開催します。全国の済生会のみなさん、ぜひご参加ください！

（済生記者 秋山みゆき）

岡山済生会総合病院

地域に寄り添う
出張健康セミナー

6月2日、京山公民館で出張健康セミナーを開催し、緩和ケア科の原史人診療顧問が「看取りにおける重要なコミュニケーション」をテーマに講演を行いました。

当日の参加者は56人。「実際の写真を通じて緩和ケア病棟の



生活を知ることができ、親の看取り時に役立つヒントを得た」との感想が寄せられました。

5月にスタートした今年度の出張健康セミナー。地域のみなさんの健康増進に貢献し、そして当院の魅力を広めることを目的としています。

今後、きこえや緑内障、大腸がん検診の重要性についてなど、計17回の開催を予定しています。

（済生記者 高畑貴子）

topics

当院への寄付により 患者さん遺族に紺綬褒章

〈茨城〉神栖済生会病院

紺綬褒章遺族
追賞伝達式を6
月15日に執り行
ないました。
当院の患者さ
んだった故・太
田将司さんは、
当院へのご寄付
により紺綬褒章
を受章。遺族の
将司さんへ遺族
追賞として授与



サポートLINE」開設を
現しました。
南部がんサポートLINE
では、患者さんのみならず職員
のお役に立てる情報も配信して
います。
今後は勉強会・研修などを企
画していく予定です。
(緩和医療科 木村尚子)

〈山形〉デイサービスセンター 長寿を願って吹き流し作り

小 白 川
デイサービスセンター小 白 川



では、6月初旬から「七夕飾り
の吹き流し作り」の制作に取り
組んできました。
利用者さん約50人で分担しな
がら、折り鶴を折ったり花を開
いたり、色とりどりの吹き流し
を作りました。東北地方では仙
台の七夕飾りが有名ですが、小
白川ケアセンターの「七夕飾り
の吹き流し」も負けていません。
吹き流しの折り鶴には長寿の
意味も込められているため、健
康で元気に暮らしているよう
にと、七夕飾りに願いを込めま
した。
(済生記者 岩城多香代)



事務職も救急業務

グリーンアシスト制

看護師の業務サポートの環
として、救急外来でグリーンア
シスト制度を導入しました。
同制度は、看護師が行なっ
ている業務を事務員がサポート
することで、看護師の業務削減に



つなげるものです。
補助内容は、車椅子やスト
ルチャーでの患者さんの搬送、
病衣への着替え介助、ベッドメ
イキングなど。事務部職員内で
希望者を募り、少しでも看護師

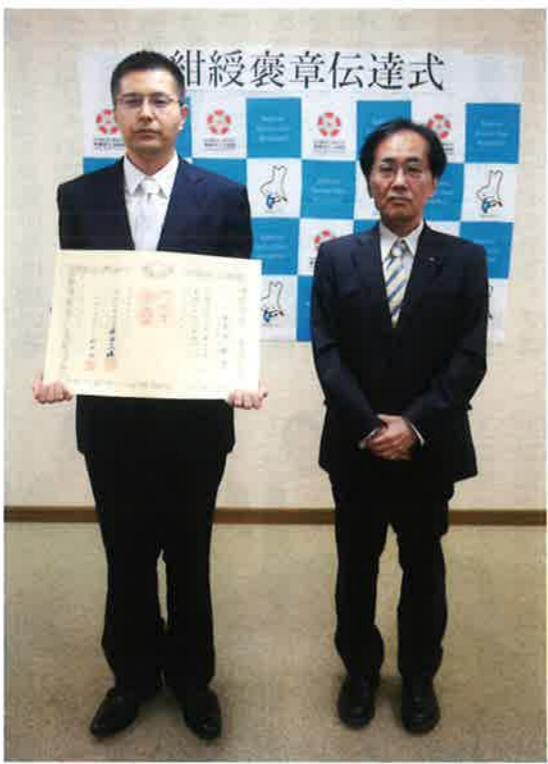
の負担軽減になればという思い
を胸に活動しています。
制度開始にあたり、当院看護
師の金田ひとみさんと小島智子
さんが講師となり、現場を想定
した研修を行いました。
今後もチーム医療の意識を高
め、職員一人ひとりが「何かで
きることはないか」を検討する
ことで、よりよい医療の提供に
つなげていきます。
(医事課 南雲一輝)

〈神奈川〉横浜市南部病院 緩和ケアチームが新機軸

当院の緩和ケアチームは、医
師3人、看護師1人、薬剤師4
人、管理栄養士1人、MSW2
人、事務2人の総勢13人で活動
しています。
ベッドサイド以外での活動も
強化しようと、昨年度末から多
職種でさまざまなアイデアを
出して計画。4月以降、院内広
報「緩和ケア通信」の定期発行
開始、院内緩和ケアマニュアル
大改訂や院内オピオイド換算表
改訂・配布、そして「南部がん

〈山形〉はやぶさ保育園 願い事が叶いますように

7月7日は七夕の日。園児た
ちは各クラスで製作活動を行な
ったり、園内に隠された七夕キ
ャラクター探しをしたりして、
この日の「七夕の会」を心待ち



されたため、当院でお預かりし
た褒状をお渡ししたものです。
太田さんとは、17年前に当院
が現在地に移転する際に土地を
探していた頃からのご縁です。
以降も駐車場の拡張などで病院
用地の手配が必要な際はいつ
もご尽力いただき、当院にとっ
て非常に心強い相談相手でした。

太田将司さんからは「母も神
栖済生会病院に長年お世話にな
り、感謝の証に寄付をしたいと
決めていたようです。母に続き
父も昨年看取っていただきました。
今後とも地域の頼れる病院と
して発展していただきたいと思います」
とお言葉を頂戴しました。
(済生記者 江口裕紀)

にできました。

当日は122人の園児たち
がお遊戯室に集合。ブラックシ
アターでのおひなとひこ星の話
から始まり、その後は七夕クイ
ズで盛り上がりました。クイズ
の後は、年長児クラスが太鼓や
トライアングル、手作りのマラ



カス(プラスチック容器にお手
玉の自身のビーズを入れた物)
で「キラキラ星」を演奏。最後
はみんな「たなばたさま」を
歌い、すてきな会となりました。
降園時には、この日のために
自分で作った作品をうれしそう
にお家の方に見せる姿も。
今年もみんなの願い事が叶い
ますように！
(済生記者 齋藤里奈)

〈和歌山〉老健ライフケア有田



3年ぶりに紫陽花を愛でる
当施設の紫陽花が満開になった6月9日、入所者さんと一緒にお花見をしました。
当施設では1階で通所リハビリテーションを行なっているた

め、2階・3階の入所者さんは2020年の新型コロナ流行以降は感染対策で1階に降りられず、外に出る機会がなくなっていました。
天候にも恵まれ、青空の下で

きれいに咲く紫陽花の花を見て、楽しそうに話をしている利用者さんを見ると、職員にも自然と笑みがこぼれました。
1階の正面玄関には、通所の利用者さんが持つてきてくれた

花や、職員が大切に育てた花などが飾られ、部屋に戻る際も玄関で立ち止まって、にこやかに職員との会話を楽しんでいました。
(済生記者 南野奈緒)

オムツマイスター9人誕生

〈福井〉特養聖和園

6月20日、紙おむつの習熟を目指す9人の職員が、大王製紙主催の「オムツマイスター・プロ研修」を受講しました。
施設職員にとつて「排泄」は日々の必須事項。参加者は高いモチベーションで臨み、村井利華子アテントアドバイザーの指導を仰ぎました。
講義ではアイテムの適切な選び方や、課題となる「モレ」の改善方法など、より良好な排泄ができる支援を目標とする排泄ケアの新概念「ソーシャルコンチネンス」を見据えた実践について学びました。
受講を終え、聖和園第一期生となるオムツマイスター・プロ



9人は、「より多くの職員に共有してもらい、園全体のレベルアップにつなげたい」と意気込みを語りました。
(済生記者 野尻 宗)

〈茨城〉神栖済生会病院
リハビリ病院と連携強化



昨年度の整形外科医増員に伴い、当院では救急搬送件数と手術件数が顕著に増加。急性期後の患者受け入れ先となる回復期リハビリ病院の重要性が増してきました。
そこで当院は、利根川を挟ん



で対岸の千葉県側にある、イムス佐原リハビリテーション病院と連携。急性期後のリハビリ効果が高い時期に患者さんが移動できる、円滑な流れの構築を進めています。
その一環として5月29日、当院職員へ向けて連携先病院の概要や特長について説明が行なわれました。

心身機能を回復させる機能訓練に加え、自宅生活を想定した日常生活動作訓練、重症患者のための床走行式多機能リフトの活用、脳卒中後の自動車運転支援活動など、最新の取り組みが行なわれているとのこと。
今後は、理学療法士の人材交流などの計画も進行中です。
(済生記者 江口裕紀)

〈宮崎〉日向病院
彩り豊かな七夕の日

7月7日、リハビリテーション室や回復期リハビリ病棟は、利用者さんや患者さん、スタッフがあつたためた短冊やお飾りで彩られました。
「笹飾りの撮影をするよと教えてくれたよ」と、回復期リハビ

リ病棟看護師の高橋香織さん。看護師や看護実習生と一緒になつて笹飾りや短冊をつける楽しそうな姿が、とても微笑ましく感じました。
そして、この日の昼食メニューは七夕の行事食です。

〈神奈川〉横浜市南部病院
3カ月間の成長を確認

新卒入職者95人を対象に、「3カ月フォローアップ研修」を6月21〜23日に行ないました。多職種で集まるのは4月の入職オリエンテーション以来です。
今回は3カ月間の振り返りをもとに、互いに成功体験を物語ってもらいました。最初は緊張の面持ちでしたが、あつという間に「それで？」「すごい〜」など、楽し気な声飛び交うように。

物語を聞いた仲間が「たくさん努力したんですね」「めげない心がいい」などのメッセージを付箋に書いて発表者へフィードバック。仲間からのたくさんのメッセージやワークシートで、自分の長所や成長を確認す



ることができました。
最後に、精神科の鈴木裕裕医師が「調身、調息、調心」についての講義と演習を行ない、研修を終えました。
(キャリア支援室 山本佐枝子)

誰一人取り残さない

ひきこもり

支援フォーラム

第11回 済生会生活困窮者問題シンポジウム



開催日

2023年

9/3日

入場無料

時間 13:30～16:30 (受付12:30～)

対象者 どなたでも参加可能

定員 500名程度 (当日参加も可)

会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 (伊勢市観光文化会館) 大ホール

講演会

演題

ひきこもりの真実

～ひきこもることを理解する～

講師

一般社団法人ひきこもりU×会議
代表理事

林 恭子氏

プロフィール

高校2年で不登校、その後30代まで断続的にひきこもる。信頼できる精神科医や同じような経験をした仲間と出会い少しずつ自分を取り戻す。2012年から、「自分たちのことは自分たちで伝えよう」と「当事者発信」を開始し、イベント開催や講演、研修会の講師などの当事者活動をしている。東京都ひきこもりに係る支援協議会委員/就職氷河期世代支援の推進に向けた全国プラットフォーム議員/東久留米市男女平等推進市民会議議員/厚生労働省「ひきこもり地域支援センター職員等への人材養成研修事業」委員等。著書に『ひきこもりの真実—就労より自立より大切なこと』(ちくま新書)。



シンポジウム

テーマ

ひきこもりから 私たちの未来を考える

パネリスト

- いなべ笑かどサロン世話人 鈴木 洋子氏
- 伊勢志摩不登校ひきこもりを考える会 世話人 濱口 拓氏
- 伊勢市健康福祉部福祉総合支援センターよりそいセンター長補佐 小川 直紀氏
- 伊勢市ひきこもり地域支援センターつむぎ (伊勢市社会福祉協議会) センター長 竹澤 尚美氏
- 一般社団法人ひきこもりU×会議 代表理事 林 恭子氏

コーディネーター

佛教大学社会福祉学部准教授
長友 薫輝氏

済生会ホームページの
二次元バーコードはこちら



主催：三重県、伊勢市、社会福祉法人恩賜財団済生会 三重県済生会

後援：三重県教育委員会、伊勢市教育委員会、三重県社会福祉協議会、伊勢市社会福祉協議会

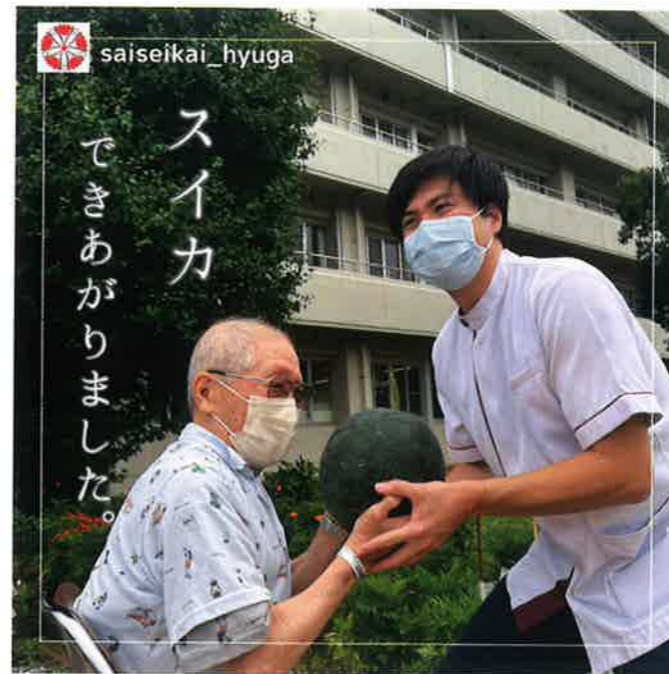
【問い合わせ】三重県済生会 常務理事 大橋 範秀 TEL 0598-51-2626 (松阪総合病院内)
詳細は済生会ホームページをご覧ください。

topics

Instagram始めました!

〈宮崎〉日向病院

当院は6月22日、公式Instagramを開始しました。掲載頻度などを考えると難しい面もあります。しかし、地域住民や当院に興味を持ってくださる人、そして当院職員に「より知ってもらえる」「より身近に感じフ



saiseikai_hyuga

スイカ
できあがりしました。

園芸部の活動で みなさんを笑顔に

〈福岡〉大牟田病院

アンになってもらえる」——そんな一つのアイテムとなるよう、コッコツと発信していきたいらと思えます。職員からは「見たよ」「今度取材して載せてください」などの声かけがあり、今後の計画も盛りだくさんです。病院全体の活気づけにつながればよいなと思っています。お気軽にフォローお願いします! (済生記者 村尾 愛)



動しています。

今年春には多くのチューリップが咲き、患者さんや職員から声をかけていただきました。少しずつ仲間も増え、現在の部員は14人。さらに大きな輪となって広がっていかれると思っています。(看護部外来係長 古賀寛子)

保育士対象にBLS研修

〈山口〉豊浦病院

当院の諏訪大樹副看護師長と植村久看護師が講師となり、併



た「今後、こういったことがあるかもしれないという意識を持って保育したいと思う」といった感想がありました。(済生記者 西田千鶴)

設保育園の保育士2人に向けたBLS(二次救命処置)研修を6月16日に実施しました。保育士を対象とした研修は今回が初めて。適切な胸骨圧迫方法・AED使用方法についてスライドを使って説明した後、人形を使って実技を行ないました。また、園で起こり得る小児・乳児の窒息解除法の訓練も行ないました。参加した保育士からは「普段からのシミュレーションが大事と言われたことが印象に残った」。

topics



ナー」屋外での「盆踊り」「打ち上げ花火」の3部構成も、怪しい空模様と強風のため、花火は別日程に変更になってしま

ました。

それでも久々の屋外開催というところで、入居者のみなさんは夜風を肌で感じ、流れてくる盆踊りの音色に昔を懐かしむ様子。踊りのボランティア小扇訥会こせんたかいのみなさんの参加もあり、少しずつ以前のようなにぎわいのある夏祭りが戻ってきました。

(活生記者 山浦裕子)



巨大地震時の対応を確認

福岡総合病院

福岡県災害拠点病院でもある当院は、開院記念日の7月3日、院内災害訓練を実施しました。今回は、警固断層帯を震源とする震度7の地震を想定。各部署から選出されたブレイヤールとインストラクター(院内DMAT隊員)の総勢90人の職員が、トリアージ、災害対策本部の運営、院内外の連携など、災害時の対応シミュレーションを行ないました。

7月13日には福岡市消防局と共同で、ヘリ救急における連携訓練を実施。当院ヘリポートに



消防ヘリが着陸し、傷病者の収容、航空隊員との連携活動をシミュレーションしました。「平時にできないことは有事にできない」

訓練を繰り返すことで、いつ起こるか分からない災害と対峙し、一人でも多くの命を救うための準備をしています。

(経営企画課 新田 怜)

〔島根〕江津総合病院

高齢者施設連絡会に26人

江津市包括支援センターと共同で昨年立ち上げた「高齢者施設連絡会」の第3回を、6月20日に開催しました。

今回は26人が参加し、コロナ5類移行後の対応についてグループワークを実施。どの施設も面会や外出、家族との意識の違いなどに悩んでおり、活発な意見交換が行なわれました。

病院・行政・介護施設が連携した感染対策強化の取り組みは県内でも珍しく、今回は県の感染症対策室や高齢者福祉課からも見学がありました。

高齢者施設における災害発生や感染症流行など、緊急事態が起きた際のBCP(事業継



続計画)策定は喫緊の課題です。今後も関係機関と連携し、BCP策定支援や感染対策向上の活動を強化していきます。

(感染管理認定看護師 恒松 愛)

〔長野〕佐久市特養

シルバードキの

にぎわい戻した夏祭り

「第16回シルバードキの夏祭り」を7月21日に開催し、約85人が参加しました。

新型コロナウイルスが5類に移行したとはいえ、高齢者施設では、今年も感染対策を講じながらの分散開催とならざるを得ません。屋内での「縁日ゲームコー

地域に向いて健康づくり

〔岡山〕吉備病院

岡山県吉備中央町の町民を対象に、6月21日、「糖尿病を知って人生100年時代を楽しもう!」運動が人生の豊かさを「変える」をテーマに、出前講座を実施しました。

当院の事務員、理学療法士、管理栄養士、看護師が出し合ったアイデアを実現したもので、会場の吉川公民館には地区の元気な高齢者25人が来場。座学だけでなく実際に運動を体験していただくことで、運動の大切さを伝えることができました。今回、病气や障害を抱える人



七々の竹笹を求め山へ

〔山形〕特養愛日荘

7月7日の七夕行事に向けて、竹笹を山に取りに行きました。

私有地なので所有者に事前に許可をとり、例年、主任介護職員の佐々木美香さんと生活相談員の筆者がタッグを組んで山に分け入ります。藪の中なので虫がブンブン。今年は前日が雨だったせいも、笹の葉は生き生きとした緑色をしていました。

竹を地上10センチのところからのごぎり切り倒し、その後手ごろなサイズに切り分け、後は入居者が願



ることの楽しさも味わえ、とても有意義な時間となりました。(慢性疾患看護専門看護師 佐藤真理子、日本糖尿病療養指導士 藤井祐貴)

を込めて書いた短冊を飾り、デコレーションします。職員も努力ももちろんのこと、地域住民のご理解のもと、今年も七夕行事を行なうことができました。毎回、地域とのつながりのありがたさを実感しています。(活生記者 高橋 睦)

水害用BCPの必要性を実感

〈大分〉日田病院



の様子には足がすくみ、身震いするほどの怖さでした。

大分県日田市では、7月10日に線状降水帯が相次いで発生し、早朝から雷を伴う大雨が断続的に降り続きまし

キ口離れた小野地区では土砂崩れが発生、道路が寸断され住民が孤立する被害がありました。また、福岡・大分間の高速道路や主要幹線道路が閉鎖され、救急搬送ができない状況に。改めて災害拠点病院としての役割と、水害用BCPの必要性を思い知らされました。

（済生記者 石井 玲）

高精度アンギオ装置導入

〈山口〉下関総合病院

当院ではアンギオ装置（頭・腹部用バイプレーン装置）の更新に伴い、6月26日、高精度撮影が可能な「Alphenix Biplane」を導入しました。

この装置では3インチ以下の高精度撮影が可能で、繊細な手技の際の視認性が上がりました。また、被ばく線量のマネジメント機能（Dose Tracking System）により、患者皮膚線量の推定値をリアルタイムに換算。患者モデル上にカラーマップピンクすることで、どの部位が多く被ばくしているか視覚的にわかり、被ばく線量低減につながります。

高精度アンギオ装置の導入を



契機に、質の高い医療により地域医療へのさらなる貢献に努めていきます。

（診療放射線技師 吉村翔吾）

園芸ボランティアにより見えた花壇

〈兵庫〉特養ふじの里

当施設では今年度から、高齢者の外出機会の増加や社会



ントをしてきた経験を活動に生かしています。

ボランティアは月2回、2時間。作業後は花壇が見違えるようにきれいになり、驚かされます。今後の活動による花壇の変

化も楽しみです。

（管理部事務課事務リーダー 猪瀬麻美）

〈山形〉特養ながまち荘 七夕に響くハーモニカの音色

7月7日の七夕の日、当荘でイサービスセンター内にハーモニカの音色が響き渡りました。奏者は青山繁さん。週2回イサービスに通う利用者さんです。ハーモニカは独学で、幼い頃から童謡や演歌などを吹いていたとか。病気で右半身麻痺を患ってからも、リハビリに一生懸命取り組みながら続けてきました。

演奏した曲は「茶摘み」と「冬の夜」。この日は猛暑でしたが、その場にいた全員が涼やかに伸



びる音色に癒やされました。演奏が終了すると拍手喝采！職員からは「久しぶりに生の楽器演奏を聴くことができ感動した」との感想があり、ご本人は「みんなに喜んでもらえてうれしい。またお願いします」と述べました。

（済生記者 高見友郁）

〈静岡〉特養小鹿苑 災害復旧用の資機材倉庫を苑内に設置

6月28日、静岡県社会福祉協議会をはじめとする6団体の代表者が当苑に集まり、災害ボランティア活動用機器に関する覚書締結式を行いました。

南海トラフ巨大地震の発生に加え、近年の台風大型化や線状降水帯による被害など、静岡県が災害に身舞われるリスクが高まるにつれ、防災倉庫を県内各地に設置する取り組みが進んでいます。

当苑は東名高速道日本平久能山スマートインターチェンジに近く、県内各地にアクセスしやすいことから、県内7カ所目の倉庫設置場所に選定されました。資材や機材を収納する倉庫を苑



内に設置し、県内で発生した災害の復旧時に活用します。収納倉庫の設置資金には赤い羽根共同募金の助成金を活用。一輪車や発電機など約370点が用意されました。

（地域包括ケア連携士 渡邊紘透）

〈東京〉中央病院 コロナ対応で東京都から感謝状

新型コロナウイルス感染症への対応に際して、7月14日、東京都から感謝状が授与されました。



授与式は院長室で行なわれ、保健医療局の成田友代技監、渡部ゆう担当部長、感染症対策調整・小原昌担当部長、医療体制整備・宮川智行担当課長の皆様から感謝状をいただきました。

中でも当院は、新型コロナウイルスに感染した人工透析患者の受け入れ数が、都内病院の中で5番目に多かったとの統計があり、非常に感謝されました。

海老原全院長は「病院全体で対応に当たってくれました。職員皆にお疲れさまでしたと伝えたいと思います。これからも一般診療、救急診療とのバランスを取りながら受け入れを行ってまいります」とコメントしました。

（済生記者 鈴木香純）

女子中学生3人が、14歳のよのなか挑戦

〈宮崎〉日向病院

7月4～7日の4日間、大王谷学園中等部の、14歳のよのなか挑戦」と題した職業体験を受け入れました。

医療機関に興味を持つ女子生徒3人が、医療系や事務系の部署を4日間で巡りました。

手術室では手術着を装着し、機器を見学。臨床工学室では人工呼吸器の説明を受け、臨床検査のエコー室では「500円玉をエコーしたらどうなるか」と、実際にエコーをかけて実験。リハビリテーション室では、お箸やソックスエイドを使った訓練に挑戦しました。「テレビで見



たことはあったけれど、実際に見学し、説明を受けて、一層医療に興味を持った。楽しかった」と振り返る生徒たち。充実した4日間になったようです。

〈済生記者 村尾 愛〉

健康講座を4年ぶりに再開

〈三重〉明和病院

6月17日、健康講座を当院で開催しました。約4年ぶりの開催で参加人数が心配されましたが、開場時間になるとぞくぞくと集まり34人が参加しました。

テーマは「脳卒中になつたら!?!」。松島聡特別顧問が、治療からリハビリテーション、在宅ケアまで脳卒中についてわかりやすく解説。県内では当院のみの磁気



刺激装置の治療例も交えて講演しました。参加者からは「健康講座が復活してくれてうれしい」「テーマも内容も良かった」「次回もぜひ参加したい」との声もあり、今後も積極的に開催したいと思います。

〈済生記者 藤岡拓人〉

がんサポーターティブ学会で優秀演題賞受賞

〈大阪〉吹田病院

当院の佛願彰太郎が、6月22～24日法認定看護師が、6月22～24日に奈良県コンベンションセンター



で開催された「第8回日本がんサポーターティブ学会学術集会」において、優秀演題賞を受賞しました。



演題は「男性患者が抱える性機能障害の実態調査」。がん化学療法認定看護師として数々のIC（インフォームド・コンセント）に立ち会い、がん患者さんが抱える性に関するセンシティブな内容について、佛願認定看護師ならではの視点でアンケートの調査分析を行ない、その結果を発表したものです。

〈済生記者 橋本 茜〉

折り紙アートの季節感を

〈東京〉中央病院

患者サービス委員会では、今夏から入院中の患者さんへのサービスの一環として「折り紙アート」を展示しています。

「少しでも気分転換になるきっかけを作れないだろうか」という委員からの発案で始まったこの活動。折り紙素材は、毎月発行される機関誌「済生」の折り紙コーナーやインターネットの情報で参考に、委員で協力して作っています。動物、食べ物、花草木など、季節を表す素材の選

択も楽しんでいきます。病棟の患者さんや職員からも「こんなふうに展示するとすてきですね」「殺風景な病棟内に手作りの作品があると、気持ちがホッと喜んで楽しめる」といったお言葉をいただき好評です。

〈広報室長 佐藤弘恵〉

七つの有人離島を訪問

〈佐賀〉唐津病院

医療体制や生活環境を知るため、看護師とMSWが昨年11月から6月にかけて、唐津市の七つの有人離島を訪問しました。かつては馬渡島・加唐島の二

つの島に当院付属診療所がありました。今後は常勤医がいる島はなく、市内中心部の病院から定期的に医師が派遣され診療を行なっています。このため、独居や高齢化が進む島では、急変時の連絡や移送など、住民一人ひとりに役割があり、島全体で見守り支え合う環境が整っていました。「住み慣れた島で最期まで暮らしたい」という声を聞き、社会資源に限られる離島では人のつながりがとても大切だと改めて感じました。

〈医療ソーシャルワーカー 小柳雅子〉



topics



を実施。その後、グループごとに異なるテーマでワークを行いました。

テーマは、「市民公開講座の企画を考えよう」「広報誌のコンテンツを考えよう」「総合患者支援センターのホームページ

を改修しよう」で、自由にアイデアを出し合いました。

普段あまり交流がない人とも和気あいあいと話ができ、つながりを深められたのではないかと思います。

(総合患者支援センター)

嶋中ますみ



〈山口〉豊浦病院 七夕まつりで フルーツ演奏

7月5日、5階ダイナミックで療養病棟の七夕まつりを行い、入院患者さんやご家族約30人が参加しました。

司会進行は、織姫と彦星に扮した病棟職員です。事前に患者さんが短冊に願いごとを書き、職員が飾り付けをしました。

当日は七夕飾りと青い海をバックに、病棟職員がフルートを演奏。「たなばたさま」「夏の思い出」「愛燦燦(あいさんさん)」「浜辺の歌」の4曲を披露すると、自然と会場から拍手が起こり、みんなで歌を口ずさみました。「感動しました。ありがとうございます」

「さいます」と涙を流す人も。最後に水風船をプレゼント。「なつかしいね」「お祭りみたい」といった感想があり、みんなでお祭り気分を味わうことができました。

(済生記者 西田千鶴)

奈良病院 多世代交流イベントに参加

奈良市社会福祉協議会主催の「多世代交流イベント」が6月24日、奈良市大安寺西地区ふれあい会館で開催され、当院から森川篤副院長兼事務部長と看護師3人が参加しました。

当院のブースでは健康相談を行ない、無料低額診療・脱水対策・転倒予防のリハビリ・看護部紹介等の資料を配布。また、小児科実習の女の子の人形の名前を募集するコーナーを設けました。

済生会を知っていたと貴重なお話として、また、ヘルステクニクスに込められている地域住民に届いているかを考える機会として、これからも積極的に地域活動に参加していきます。

なお、女の子の人形の名前は、

した。

機体を前に記念撮影を楽しむご家族や「どうすればフライトスタッフになれるの」と熱心に質問をする子どもたち。今回は見学会の途中でヘリの出動要請がかかり、実際の出動風景を見ていただくこともできました。

今年度見学会は毎月第3土曜日に開催。参加無料・申し込み不要で、県外の方も参加することができます。みなさんもぜひご参加ください。

(済生記者 西澤真由美)

〈栃木〉宇都宮病院

看護部リクルートサイトに 優秀賞

当院の看護部リクルートサイトが6月20日、CBNewsが主催する「病院広報アワード2023」の「大病院・ホームページ部門」で優秀賞を受賞しました。

全国の病院広報事例を共有し、特に優れた病院を表彰する本アワードの審査基準は、経営視点・体制・企画・制作・成果の五つ。総エントリー174件の中から最優秀賞6件、優秀賞12件が選出されました。



多数の応募の中から「三つ編みのみっちゃん」に決定しました！

(看護部 副看護部長 小田和加)

〈神奈川〉横浜市南部病院 横のつながりを深めよう

当院総合患者支援センターの部署間の横のつながりを深める目的で、7月5・6日、ワークショップを開催し、合計35人が参加しました。

3グループに分かれ、まずは昨年作成した「総合患者支援センターマップ」を用いて、それぞれ自己紹介も兼ねた業務紹介



同サイトは看護部、医療情報室、人事課、経営支援課をメンバーとする「看護部リクルート広報戦略WG」が制作し、今年1月に公開しました。



WGリーダーの小林阿由美看護部長は「当院の看護部の魅力が詰まっていますので、ぜひご覧ください」と今回の受賞でさらに自信を深めています。

(経営支援課 宮崎 彩)

ドクターヘリ見学会を再開

滋賀県病院

7月15日、滋賀県主催の「京滋ドクターヘリ見学会」を3年5カ月ぶりに開催し、延べ約250人が参加しました。

久しぶりの見学会に、地上ヘリポートには受付時間の30分前から多くの来場者が詰めかけま



リハビリ実習生受け入れ再開

〈福岡〉大牟田病院

当院は、福岡県・熊本県の大学や養成校計10校から年間60〜70人程度の実習生を受け入れてきました。コロナ禍も落ち着いてきたため、リハビリ実習生の受け入れを再開しました。当院では、実習生一人ひとりに寄り添い、ともに課題を整理し、問題解決をしていく独自の臨床教育システムを構築。多くのスタッフが「臨床実習指導者講習会」を受講・修了しており、理学療法・作業療法共通の実習指導要綱のもと、後進育成のため臨床実習指導を行なっています。



内科・外科病棟、整形外科病棟、回復期リハビリ病棟、外来リハの医療部門4カ所、さらに地域リハビリ実習として通所リハビリ、訪問リハビリを経験していく中で、多くのスタッフと関わり、楽しく、時には厳しく実習期間を過ごしてもらっています。

(リハビリテーション科長 稲吉直哉)

遺族が支えあう「ポムの会」

滋賀県済生会訪問看護ステーション

当施設では遺族ケアとして、遺族訪問やグリーンカード送付とともに、「ポムの会」という遺族会を開催しています。

ご遺族が大切な家族の死を乗り越え、人生を前向きにリスタートできるように、平成16年に「まちの保健室事業」の一環としてスタートしました。

最近の開催は5月17日。ご遺族3人、住職1人、済生会職員OG1人、訪問看護ステーション職員2人が参加しました。



家族を亡くしたという共通の経験を持つ人の集まりだからこそ話すことができ、理解し合える安全な場所として、それぞれの状況や思いなどを共有しました。

ご遺族同士が掛け合うあたたかな言葉は、何よりもご遺族を支えるものになると感じています。また、訪問看護師にとっても、自身のケアを振り返り、次のケアへの気づきがあります。

(看護係長 高阪弘美)

心ひとつに！ オリジナルポロシャツ完成

〈岩手〉北上済生会病院

当院のオリジナルポロシャツが6月27日に完成し、販売を開始しました。

右胸には公式マスコットキャラクターの「さくるん・ふわりん」、左腕には「IWATE KITAKAMI」の文字がプリントされています。白、黒、ロイヤルブルー、ネイビー、グレイの5色展開で、「一体感が出ている」「キャラクターがかわいい」「機能性があって着やすい」と好評です。



なお、1着売れるたびに20円が「高松宮記念基金」に寄付されます。

(済生記者 掛川千恵子)

2人の医師に医師会表彰

山口地域ケアセンター

山口県医師会表彰式が6月15日に開催され、当院の医師2人が表彰されました。

内科の三木秀生医師は、症例報告、院内感染対策、そして療養病床における患者のQuality of Life および Quality of Death についての研究と多数の論文発表、介護などの幅広い分野への貢献で「医学医療に対する研究による功労者表彰」を受けました。また、安武俊輔

名誉院長は、地域医療への長年の貢献で「長寿会員表彰」を受けました。

受賞にあたって三木医師は、「高校時代からエッセイを書き続けて40年、そのトレーニングの甲斐あって賞をいただきました。賞をもらったから終わりではないと思っています。永遠の論文アスリートは、次の論文執筆で走り始めました」とコメントしました。

(済生記者 楊 玉華)



ワローズのマスコットキャラクター・つば九郎がプリントされた栄養ドリンク「タフマン」をいただいたことあります。早速、全職員に配布して欲しいと思いました。

(済生記者 西山汐里)

心不全に関する多施設カンファ立ち上げ

〈埼玉〉加須病院

6月21日、市民ホールで「心不全多施設ハートチームカンファランス」を開催しました。

これは、心不全に関する知識・情報を共有し、地域全体で連携を強化することで、心不全によ



その後は、連携医療機関のスタッフなどを交えた多職種ディスカッションを実施。発起人でもある循環器内科の寺嶋豊医師は「今後も半年に1回程度開催し、多職種でのシームレスな医療を行なえる環境をつくり、地域医療に貢献していきたい」と話しました。

(済生記者 蓬田絵里子)



左から安武俊輔 名誉院長、三木秀生 先生、中村洋 院長

新しいエプロンで活動再開

コロナ禍で中止して以来、3年ぶりに外来ガイドボランティアの受け入れを、7月から再開しました。

7月3日、これまで活躍していただいていたボランティア2人に来院をお願いし、感染対策や患者さんの案内方法など、再開にあたってのオリエンテーションを実施しました。



また、気分を一新するために、ユニホームであるエプロンを新調しました。新しいエプロンはボランティアのみなさんにも好評で、オリエンテーション後は早速そのエプロンを身につけ、活動を開始していただきました。今後もボ

ランティアのみなさんと一緒に、来院する患者さんが過ごしやすい病院づくりに取り組んでいます。

(医事課 尾関知佳)

〔栃木〕 宇都宮病院

中央ブロック会議に39人

宇都宮市医療・介護連携支援ステーション運営業務委託事業として、6月21日、今年度1回目の中央ブロック連携会議をオンラインで開催し、行政や多機



関の職員関係者39人が参加しました。

はじめに、栃木県地域生活定着支援センターの青木康夫センター長が「生きづらさを抱えて孤立する人への支援」福祉だけに限らない定着支援の実践」と題して講演。講演後、質疑応答を含めた意見交換会を開催したところ、肯定的な感想が多くありました。

閉会にあたり稲見一美地域連携課長は「誰一人取り残さない社会の実現のために、これからも思いやりをもった優しい対応を心がけて相談者と向き合っていきたい」と挨拶しました。

(地域連携課 秋山綾香)

〔埼玉〕 川口総合病院

DMAT職員対象に救急車運転の習熟訓練

DMAT職員の運転技能の確認・維持・向上を目的として、6月15日、埼玉県警察川口警察署交通課の指導のもと、「救急車等運転習熟訓練」を飛鳥ドライビングカレッジ川口で行ないました。

急制動の練習では、普通車両を時速40キロで走行し、制動開

始地点で急ブレーキを踏む体験をしました。また、駐車する際、運転手が視認できない範囲を、他の職員が車のまわりを確



認しながら車両誘導を行なうなど、職員同士の積極的な意思疎通の重要性も確認。

今回初参加の加藤裕子看護部外来管理師長は「救急車はいつも運転する車よりも車体が長く、角を曲がる際の内輪差の感覚をつかむのが難しかった」と述べました。

また、当日は日常業務で病院車両を運転する職員の運転技能の習熟訓練も同時に行ないました。(済生記者 原 衣里奈)

女性が受診しやすい病院を目指して

AI搭載の超音波診断装置の導入にご寄付を



SAISEIKAI MATSUSAKA GENERAL HOSPITAL
社会福祉法人 済生会松阪総合病院

目標金額 800万円 2023年 7月 18日(火) 9時から 9月 29日(金) 23時まで

一済生会松阪総合病院から皆様へ一
乳がんの早期発見を目指した
AI搭載の超音波診断装置の導入にご支援を

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

こんにちは。済生会松阪総合病院 病院長の清水敦哉です。当院は三重県の『女性が働きやすい医療機関』の認証を受け、たくさんの女性スタッフが活躍しています。なかでも乳腺センターは松阪市外からも多くの患者さんに来院していただいております。乳がんの特化した乳腺外科医が専門的に診断・診療にあたっています。

現在、乳がんは若い世代の発症も多く、日本人女性の乳がん罹患数は2021年で94,400人となり、がんの中で最も多く、今や、9人に1人が乳がんになる時代となっています。当院には超音波検査が得意な医師や臨床検査技師がおります。より安全に早期発見する優れた超音波機器があれば、鬼に金棒です。

そこで、この度当院ではクラウドファンディングに挑戦することとしました。AI搭載により人が発見する以上に早期のがん病巣を発見することができます。地域の乳がん早期発見のお役に立つために、広く皆さまの温かいご支援をいただき、最新鋭のAI搭載超音波機器を導入したいと考えています。

乳がんの早期発見と診断向上のために、
皆さまの温かいご寄付とご協力をよろしくお願いいたします。

病院窓口での寄付も承ります。インターネット上での手続きが難しい場合は、
済生会松阪総合病院まで直接ご連絡ください。

EMAIL : crowd@matsusaka.saiseikai.or.jp TEL : 0598-51-2626

READYFOR

済生会松阪総合病院 乳がん レディーフォー



<https://readyfor.jp/projects/matsusaka2023>

topics

6月26～30日の1週間、当院初の試みとして「なでしこリユース事業」を実施しました。これは、職員の家庭で眠っている物品を持ち寄り、希望する患者さんにお譲りする取り組みです。準備段階から試行錯誤の繰り返しでしたが、短期間ながら、タオル類や衣類、オムツなどの生活用品約460点が集まりました。

初のリユース事業に 生活用品460点

〈大分〉日田病院

フがアットホームに協働し、さらなる業務改善に取り組んでいきます。筆者は病院勤務の経験はありますが福祉施設は初めて。最初は戸惑いましたが、赤星透支部長から経営改善に関する課題とアドバイスをいただき、施設訪問後は報告を毎回繰り返し返すことで安心して取り組みました。神奈川県済生会では、人事交流の推進が課題としてあり、赤星支部長を中心に管下6病院内の事務部長会で人事に関する取り組みを行なっています。

（係長 石山 純）

三重 明和病院 斎王まつりに 健康推進ブース出店

平安時代の王朝絵巻を再現する「斎王まつり」が6月3日に行なわれ、当院は健康推進ブースを出店しました。

台風により開催が危ぶまれましたが、当日はいい天気。屋台やキッチンカー、出店ブース合わせて100店以上が集まり大いににぎわいました。

当院のブースでは、リハビリ職員によるロコモ予防、訪問看護ステーション職員によるハンドマッサージをしながらの看護相談、居宅介護支援センター職員による介護予防などを実施。約50人が来場しました。

予想を上回る盛況でハンドマッサージには列ができ、隣のブースからパイプ椅子を借りる一幕も。準備不足もありましたが、来てくれた人には喜んでいただけたと思います。

（済生記者 藤岡拓人）

埼玉 川口総合病院 看護功労者知事表彰受賞

5月12日、埼玉県知事公館で



行なわれた「埼玉県看護功労者知事表彰式」において、当院の産婦人科・酒井明美管理師長が表彰されました。この表彰は、看護職員としてその業務に永年励み、特に功績のあった人に対するもので、平成元年から毎年実施されています。

酒井師長は「多くの患者さんとその家族に出会い、一緒にたくさん笑い、たくさん泣いて、本当に多くのことを学ばせていただきました。このような賞をいただけたのも、これまでお世話になったみなさまからのご指導とご協力、支えがあったからこそです。この賞を励みに、これからも気を引き締めて仕事を

七塔コンサート4年ぶり

〈大阪〉野江病院

音楽療法活動を行なっているピアノストの西山満理さん、ソプラノ歌手の石橋文恵さん、フルート奏者の大鶴華子さんをお招きし、7月7日、1階ロビーで七塔コンサートを開きました。このコンサートは年2回開催していましたが、コロナ禍でやむなく休止に。4年ぶりの開催となるだけに、職員もこの日を待ちわびていました。

七夕にちなんだ曲や童謡などの演奏が始まると、ロビーはなごやかな雰囲気になりました。七塔の願い事を胸に参加された患者さんやご家族は、みなさんとてもにやかな表情を浮かべていました。



筆者は2月から6月末まで、経営改善の支部支援として特養わかぐさに週1～3日間勤務する機会をいただきました。

経営改善支援を通して 人事交流

神奈川県済生会

（済生記者 原 衣里奈）

同施設は現在地に新築移転をして3年。介護課・医務課・生活支援課・栄養課・事務スタッフ

締めは恒例の「六甲おろし」で。会場からの大きな拍手とともに幕を閉じました。

（済生記者 坂本千晶）



期間中に48人が来場し、そのうち28人に87点をお譲りすることができました。無料低額診療事業利用中の人も来場するなど、生活支援の一助となったのではないかと思います。

「家族の介護をされていてオムツは高いから助かる」「ぜひまた利用したい」との声をたくさんいただき、次回の開催への思いをさらに強くしました。

（医療相談員 小野恵奈未）



〈福岡〉大牟田病院

看護部病院見学会に 実習中の学生2人が参加

今年度2回目となる来春卒業

載々

済生会の職員が寄稿した記事が、掲載された雑誌等を紹介しします

業予定者向けの「看護部病院見学会」を6月3日に開催し、実習の合間をぬって2人の学生が参加しました。
八谷恵看護部長から済生会の理念・方針、看護部の業務などについて説明があり、病棟見学と合わせて約1時間半のプログラムで進行。
見学の合間には先輩看護師との対談時間も設けました。先輩看護師からは「当院を選んだ理由は」、学生からは「仕事で困ったことはありませんか」などの

やりとりがあり、終始なごやかな雰囲気でした。
病棟見学では、同窓生の先輩との再会もあり安心したのか、表情が和らぎ説明に聞き入っている場面もありました。
帰り際には「病院の雰囲気よかったです」と採用試験を受けました。キラキラした眼が印象的でした。
私たち看護部はもちろん、全職員が待っています！
(6階病棟課長 藤吉初美)



日々の上肢診療に必携の書！

岡山済生会総合病院

今谷副院長

今谷潤也副院長(整形外科)が執筆・編集した「レジデントのための整形外科診療 上肢」が6月21日、日本医事新報社から刊行された。

手および上肢の外科領域は整形外科の中でも特に解剖が複雑で、治療方針も難解といわれている。本書は上肢の機能解剖のポイント、頻度の高い外傷・疾患の診察から治療までの流れを豊富なシエーマ・イラストとともに分かりやすく丁寧に解説。



レジデントのための整形外科診療 上肢
今谷潤也 著
この本は、上肢の機能解剖のポイント、頻度の高い外傷・疾患の診察から治療までの流れを豊富なシエーマ・イラストとともに分かりやすく丁寧に解説。

疾患に対する診療のノウハウの習得のみならず、自らが経験した症例についての知識整理のためにぜひ読みたい。また、整形外科関連の看護師やリハビリテーションスタッフなど、コメディカルの方々にも役立つ知識や情報を盛り込み、充実した内容となっている。
ぜひ活用いただきたい一冊。
(済生記者 高畑貴子)

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも、ご報告ください

癒やしのペット、タロ！

ペット不可のアパートでも飼える

ことと、ニヤつとした笑顔に惹かれ、フトアゴヒゲトカゲを飼い始めまし

ニンジンは大嫌い。毎朝かわいい可愛トカゲの健康のため、いろいろな野菜を食べさせようと頑張っています。

タロと名付けたものの、実はまだ雄か雌かわかりません。雌ならタロ子にしくちや……そんなことを思いながら、彼(?)に日々癒やされ、仕事を頑張る活力になっています。

(静岡済生会総合病院 健康管理センター 副主任 山名晃子)



カープファンのカープファンによるカープファンのための集い

みなさんほどの野球チームのファンですか？ 特養たかね荘こやうらの利用者さんは過半数が古参のカープファンです。カープの話になると血肉沸き踊るのは広島県民の性(さが)なんでしょう。赤いものを見ると気分が上がるのも……。

そんな生粋のカープファンを盛り上げるべく、梅雨真っ盛りの6月22日、カープ男子・カープ女子の利用者さんで決起集会を開催。当施設のアイアンシエフが腕を振ったお好み焼きをビール(ノンアルコールでした……)片手に食べながら、カープ初優勝のDVDを大型スクリーンで鑑賞しました。
優勝が決まり、グラウンドにファンが雪崩のように駆け込んでくる瞬間は迫力満点！ 利用者さんたちも昔を懐かしそうに楽しんでいました。
今年のカープ優勝で盛り上がるためにも、選手たちには頑張ってもらいたいものです。
(広島・特養たかね荘こやうら 介護員 加藤晋也)

方！ ワイワイ楽しそうな光景が目につかびます。
(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

丹精込めて作られたナスに舌鼓
西条特養のデイサービスには、職員が丹精込めて手入れしている畑があります。野菜や花など、季節によって見どころがありますが、今年は大きく立派なナスをたくさん収穫。
利用者さんにも味わっていただくとうと、厨房のオーブンでしっかりと焼き上げました。熱々のナスがディールの匂いが部屋いっぱい。皮むきは利用者さんにお任せすると、慣れた手つきでどんどん処理されていきました。こうして出来上がった焼きナスを、ボン酢と鰹節をかけて、利用者さんと職員で「いただきます！」「立派なナスやね」「おいしい、夏を感じるとみなさん大喜び。
キュウリやトマト、カボチャなど、



た。
犬や猫などの動物が大好きな私ですが、は虫類を飼うのは生まれて初めて。でも、嫌いな野菜を見せると目をつぶって無視するところや、

おなが空くと舌をペロつとしてアピールしてくるところ、あくびをする時のなんともいえない表情がとてかわいい!!
オクラ、バナナ、リンゴは大好き、

畑はたくさん野菜で彩られています。次はどの野菜を食べましょう？
(愛媛・西条特養 済生記者 中野佳弥)

★夏野菜をたくさん食べて夏バテ知らずですね。キュウリとトマトで冷やし中華なんていかがでしょうか？
(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

雨の日が待ち遠しい！

梅雨でも園庭遊びを楽しみたいという思いから、保護者の方にカッパと長靴を持って来てほしいとお願いしました。その話を聞いて、大はしゃ



ぎの子どもたち。その姿を天から見ているように、6月1日の夜中に大雨が降り、翌日の園庭はまるで海のようにまりました。
子どもたちは、待ってましたと言

わんばかりに目をキラキラさせて「お外行くんだよね!」

色とりどりのカッパを着て、年中・年少クラスの子どもたち26人が園庭へ。長靴でパシヤパシヤと水を飛ばし、雨を全身で受け止めながらダイナミックに遊びました。中には、屋根から落ちてくる大きな雫がフードにぱしゃんと当たる感覚を面白がる子どもも。

晴れの日とはまたひと味違う、雨の日ならではの感触や気づきがあり、「また雨ふらないかな」と待ち遠しそうな子どもたちでした。

(石川・こども園アイリス)

済生記者 小寺 唯

★長靴で水たまりをパシヤパシヤ歩くと楽しみ、たまらないですよ。大人になった今でもやっちゃいます。

(メディカル・リーフ 坂本陽子)

カプトムシの里親制度創設

4年ほど前、園にカプトムシの幼虫をいただきました。園長と事務職員が毎日お世話をし、元気に育った成虫が卵を産み、それがまた成虫となり、また卵を産み……。今年もそろそろ生まれるかな?と6月上旬ごろ、土をかき分けると、いつの間にか成虫になった大量のカプトムシが!!

子どもたちが見られるように虫か



ゴに入れると、「すげー! カプトムシだー!」「いっぱいおる!!」とみんな興味津々で集まってきました。

カプトムシが年々増えていることもあり、今回「里親制度」を創設。オス・メスのセット、先着30組で家庭で飼育したい方を募ったところ、お迎えの時間に虫カゴを抱えて子どもたちが引き取りにやって来ました。

カプトムシのお世話を通して、生き物の命の尊さなどを子どもたちに学んでもらえたらうれしいです。

(熊本・しらぶじ子ども園)

主幹保育教諭 住岡直美

★地上に出た途端、子どもたちのア

ツイ視線に囲まれてカプトムシたちもびっくり!?

(メディカル・リーフ 坂本陽子)

アニマルセラピーの効果を実感

6月27日、豊浦病院の駐車場に一匹の来客がありました。この目を心待ちにしていたのは、入院患者のFさん。来客とはFさんの家族、柴犬の「コタロー」です。

Fさんは入院してから食欲低下が続いていたのですが、コタローに会えると決まった日から食事摂取量が増加し、会話も増えてきたというから、びっくりです。

見知らぬ場所に来て最初は落ち着きなくソワソワしていたコタロー



も、感動の再会を果たし、おやつをもらったり、頭をなでられたりとコミュニケーションをとってうれしう。

Fさんは「いつもおやつはこんな風に私があげよるんよ。早く家に帰りたいね」と在宅復帰の目標を語っていました。その後すぐ栄養チューブも外れ、経口摂取のみに。

職員も自由で可愛いコタローに癒やされ、改めて動物の力はすごいな」と感じました。

(山口・豊浦病院 済生記者)

西田千鶴

★そんなに効果バツグンとは驚きです! Fさんに元気を与えて、忠犬ハチ公ならぬ忠犬コタローですね。

(本部広報室 杉山菜央)

患者さんの想いをつないで

6月初旬に、患者さんから素敵なプレゼントが届きました。「サンキヤッチャー」という北欧生まれの縁起物で、日の光が集まり反射して、とても美しいです。「手に取って愛でただければ幸いです。これからの時が素晴らしいものでありますように」とのメッセージも。このサンキヤッチャーを作ってくださった方は、当院で「勝ち虫とんぼ」に出会い、とても励まされたそうです。

「勝ち虫とんぼ」もまた、患者さん

からのプレゼントでした。トンボは前にしか進まないため「勝ち虫」と呼ばれ、縁起物のモチーフに使用されてきました。「前進あるのみ」という決意とともに、背中を渦巻きには「巻き返し」の意味が込められています。これら二つの素晴らしい想いがつなげた瞬間に、私は感動しました。

(福井県済生会病院)

認定がん専門相談員 細川清子

★治療に加え就労支援など総合的ながん対策が福井県済生会病院の特長です。患者さんがそのことを一番知っているんですね。

(本部広報室 山内 敦)



はまな荘カープ女子応援回復!

新井貴浩新監督の寛容さ、包容力がチームを変えたのか、大方の予想



を覆し好調を維持している広島東洋カープ。5月のコロナ5類移行もあってか、ふと気づくと、はまな荘カープ女子の応援が復活していました。5階療養棟スタッフステーション前のテレビ周辺に陣取った観戦者は総勢14人。みなさん真剣な眼差しで一生懸命応援されていました。

感染対策のため、これまでは声を出しての応援はもちろん、大勢が集まった観戦もNG。せめてもの楽しみに、職員でグッズを持ち寄って展示したカープコーナーで皆で応援する雰囲気作りをしていました。

これからもカープコーナーは充実させますが、利用者さんのリハビリに対するモチベーションアップにつ

次号予告 済生 No.1131 [令和5年9月号]

- 済生会の不易流行論 (180) 炭谷 茂
- NEWSな済生人 福地桃子
- 済生会交差点
- この人 福地桃子
- 口福につぼん (72) 琉球料理 7種(沖縄県那覇市)
- てづくりおもちや いまいみさ

広告索引

- 三井住友銀行 表紙見返し [表紙 2]
- 麒麟ビレッジ 裏表紙見返し [表紙 3]
- アクサ生命保険(株) 裏表紙 [表紙 4]
- 富国生命保険(相)
- 日本生命保険(相)
- 第一生命保険(株)
- 大樹生命保険(株)
- 明治安田生命保険(相)

なげるためにも、以前のようにスタジアムで観戦できる日が来ることを願っています。

(広島・老健はまな荘 済生記者)

佐藤 聡

★すてきなカープ女子! 話題になった応援しゃもじを片手に、みんなでスタジアム観戦できるといいですね。

(メディカル・リーフ 平山果奈)

中央病院「虹のアート展」取材

(東京) 中央病院の一角で、季節ご

とに開催されている「虹のアート展」をご存知でしょうか?

障害を持つ人

を対象にアート教室や展覧会企画などを手掛けるNPO法人「虹色の風」と中央病院が共同企画したこの展覧会。昨年冬と今年春の開催に続き、7月24日から3回目スタートしています。

済生会のソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア「シ



よるこびがつなく世界へ

KIRIN

夏が香る
アイスティー。



果汁0.1%



午後®の紅茶
Summer!



普段はクール？な先輩の意外な一面
本部経理課・旗手厚太郎さんが7月5日にTIS インテックグループ主催ビジネスサミットに登壇。済生



(大空出版 後藤藍子)

「ンター」では、作品の解説や障害とアートの関係性、展示の見どころなどを取材。印象的だったのは、「障害とアートは切り離して考える」という虹色の風代表の平山さんの言葉。作品の中では、障害はその人だけの個性として輝いていて、だからこそ見る人がこんなにもパワーをもらえるのだと感じました。
ぜひ、みなさんも足を運び、元気をもらってほしいです。



(本部広報室 杉山菜央)

会の概要とインテック社が開発した経理業務のアプリを紹介しました。このアプリはOffice365に含まれるPowerAppsというツールを活用。経理課ではExcelで作成した複数の帳票の整合性を確認する作業に多くの労力がかかっていましたが、アプリの導入でデータの一括登録やマスターメンテナンスが誰でも簡単に管理できるようになり、年間約120時間分の作業を削減できました。
普段はクールな旗手さんですが、このときはちよつと緊張気味？チャイミングな一面が見られました。



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施業救済による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。
以来今日まで112年、社会経済情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施業救済」という創立の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。
戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

済生 [令和5年8月号]

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和5年8月10日発行
通巻第1130号 (第99巻第8号)

編集兼 炭谷 茂
発行人
発行所 社会福祉法人 済生会
〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

© 社会福祉法人 済生会

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部 東京 支部 40都道府県
病院 81
診療所 20
介護医療院 2
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 120
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 64
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 10
合計 403 (数字は令和4年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の60島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万4000人。

済生会グループ保険のご案内

スケールメリットを活かした、
個人保険に比べて
割安な保険料で
大きな死亡保障を!!

グループ保険

〔災害割増特約・こども特約・
こども災害割増特約付福祉団体定期保険〕

(本人・配偶者・こども対象)

診査がなく(告知のみ)
手続きが簡単なおうえ、
剰余金があれば
契約者配当金が戻ります。



① 終身医療保障プラン

〔手術給付特約・手術補完給付特約・
先進医療給付特約(12)・死亡保険金不担
保特約(入院保障保険(終身型 09)用)付
入院保障保険(終身型 09)〈60日型〉〕

② 総合医療あんしんプラン

〔総合医療保険(団体型)〕

(本人・配偶者・こども対象)

2つの保険より、
選択できます。



第二の人生を
充実させるために
今からご準備を!!

ゆうゆうライフプラン

〔拠出型企業年金保険、
医療給付金付個人定期保険〕

(本人のみ対象)



済生会グループ保険は令和5年8月にご案内します。
この機会にぜひご検討ください。



※このご案内は商品の概要を説明しています。ご契約の際には、「パンフレット」「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」を必ずご覧ください。

(グループ保険・ゆうゆうライフプラン引受保険会社)

アクサ生命保険株式会社 [事務幹事会社]
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社
第一生命保険株式会社 大樹生命保険株式会社
明治安田生命保険相互会社

(医療保険引受保険会社)

アクサ生命保険株式会社 (終身医療保障プラン)
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7777(代表)

日本生命保険相互会社(総合医療あんしんプラン)
法人サービスセンター
電話 0120-563-925
【受付時間 月曜日～金曜日9:00～17:00(祝日・12/31～1/3はお取扱いしておりません)】

(グループ保険・ゆうゆうライフプラン・終身医療保障プラン お問合せ先)

アクサ生命保険株式会社 制度推進部
【照会先】法人ビジネス業務部
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3 電話 03(6737)7450

(総合医療あんしんプラン担当営業部)

日本生命保険相互会社 公務第一部
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-1 電話 03(5533)5085

Form No.0D2313(10.0) AXA-A1-2202-0122/9F7 2023.02.01